京城日報

十八日夕刊

定價　紙代（一部金五錢　一ヶ月金六十錢…）
廣告料　五號活字一行金五十錢…
發行兼編輯人　奧田直
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社

汽車時間表（七月十日改正）
[illegible]

○リンセンゲン軍退く

巴里來電に依ればフオン、リンセンゲン將軍の兵團はルツクの西南よりリパノカウの後方迄退却せりとの報ありと（紐育電報）

○露軍頻りに進出す

露軍はリパ河の上流地方に於て進出を繼續しポリニアに於て七月一日迄に總計千二百名の捕虜を得たり（露都電報）

○獨軍包圍されんとして脫る
露軍密集攻擊を擊退す

公報に曰くストルニスキの東南及びルツクの西方に於て敵は諸地點に於て密集攻擊を行ひたれども擊退せられ露軍はオシヨフ、ゴルビン地方に於て頑強に抵抗せる敵を驅逐し獨軍包圍を開始せるに敵は重砲、野砲數門を遺棄して逃走せり我軍の獲得せる捕虜は今日迄に三千名に達せり（露都電報）

○佛軍逆襲して勝つ

巴里來電公報に曰く、ソンムの南方に於て十五日夜獨軍は濃霧に乘じ運河に沿ひ前進し猛烈なる攻擊を試み奇襲に依りラメイソネット及びビアチエスを占領したるが我が軍は有力なる逆襲を行ひて兩地を奪還し且レーブスをも占領したりコウプスの北方に於て少數の獨兵猶抵抗を續け居れりフルーリーの西南に於て我軍は前進したるが同地及びシエノイ及びラロウフイに於て最も激烈なる砲擊戰行はれつゝあり（倫敦電報）

○佛露軍斥候活動開始
佛軍ミユーズの左右に勝つ

巴里來電に依れば十六日發表の公報に曰く佛露兩軍の斥候はシヤンパンユに於て活動を開始し佛軍はミユーズの左岸に於て三〇四高地の東方に於ける敵塹壕の一部を占領しミユーズの右岸に於ける佛軍はフラウリウ西方に於て進出を繼續し若干の捕虜を獲たり（倫敦電報）

○獨逸の佛軍侵入認容

獨逸公報は佛軍がレオーモンの西南に於る獨軍の塹壕に侵入せることを認容せり（倫敦電報）

○獨逸公報の敗戰否認

獨逸公報は英軍がポジエールとロングヱヴアルとの間にて敵戰線を突破し陣地を得たる事並にトロネス森林を奪取したる事を否認せり（倫敦電報）

○日置公使懇願を受く

黎總統段國務總理は日本に財政の援助及び日支親善に付之が盡力を日置公使に懇願せり（北京電報）

○兵器廠引渡より殺傷

成都來電に曰く周畯氏は成都兵器廠の引渡を迫りしに總辦之に應せざりし爲め十日朝總辦は放逐され其の部下百餘名殺されたり周軍の損害百に達せず兵器廠は破壞されしも機器は損害なし（北京特電）

○誤って加特敎會を擊つ

成都兵器廠奪取の際總辦の兵士[illegible]之に死せり又雲南軍周駿師下落伏せりとの說を信じ加特敎會堂を攻擊したるに依り宣敎師は根據なき說を輕信しさる行動に出でし無禮を詰責せり（北京特電）

○有賀博士に就て
財部中將歸朝談

海軍中將財部彪氏は十八日商船會社の南丸にて門司經由海路東上せるが其の際語りて曰く有賀博士は子女の遺骨を携へ安奉線經由歸朝の途に在りしが博士の袁氏に對する忠勤は博士の立場として已むを得ざる事にて余は大に同情を表すると共に此の批難に對しては博士の位置を羨む一部策士の所爲なりと信じ其の頑劣を咎むる者なりと（門司特電）

○章公使赴任

駐日支那公使章宗祥氏は十七日北京發赴任の途に就けり（北京電報）

□黎總統肖像入銀貨　支那財政部は共和再造を記念する爲め各省に新銀元十萬元の鑄造を命じたるが右は民國の新模樣に則り右面には黎總統の肖像を入れ民國五年某月鑄造と刻する由にて奉天にも通令公布したりと（奉天）

○總督靜養

寺內總督は總督府政務に關する大體の打合も終了し且つ十七日兒玉局長著京せしより細密に亙る交涉事項は之を同局長に一任し十九日一先づ東京を引上げ約二週間の豫定にて箱根方面に滯在靜養する由（東京特電）

○公債逆輸入高

我公債の逆輸入せられしもの一千萬圓に達せり（東京電報）

○金融と債務償還

金融緩漫の結果勸業銀行農工銀行等に於ける債務者は年賦返還期を繰上げ償還する者多し（東京電報）

○南航運賃引上

各汽船會社共南洋航路の運賃引上を爲すに決せり（東京電報）

○橫濱祝賀會

十八日橫濱市に於て日露協約祝賀會行はれ大隈首相露國大使等臨席頗る盛會なりき（[illegible]電報）

○岡男危篤

前陸相岡男は日に病勢增進し危篤に迫りつゝあり（東京特電）

◉祝賀申込夥し
締切は十九日正午

京城に於ける官民聯合の日露協約祝賀會は愈々來る二十日午後七時より朝鮮ホテルに於て舉行のことゝなり既に其々準備中なるが今回は短時日の間に計畫されしことゝて各方面に對しては別に勸誘狀等を發送せず新聞紙上の廣告によつて通知せしに過ぎざるも申込者意外に多く十八日正午迄京城府庶務係宛申込を了したる者內鮮人を通じて百五十餘名に達し就中鮮人側よりは趙子爵の[illegible]たり此の間ならば十九日正午の締切迄には少くも二百五六十名の多きに達する見込なるが同會へ出席希望者は至急此際申込をなさゝれば會場設備の都合上止むなく謝絕することあるべし尙ほ餘興の趣向に就ては兩國民交歡の意を含めたるもの其他數種十數番何れも女妓入等によりて內々準備中なれば當日の正賓たる露國正副領事を始め其他の外國領事及び官民一同の賞讃を博するに足るものあるべく實行委員は目下專心準備中也

◉下水工事再開

京城下水溝の問題に就ては昨紙所報の如く十七日正午より京畿道長官室に於て道長官を初め金谷府尹時永道事務官吉原北村の兩府事務官等列席し打合す所ありたるが同日は全部打合を終了するに至らず更に十八日午前十一時半より再び同所にて打合す所あり大體に於て協議纏りたれば愈々近く府協議員會を召集すべしと

◉定例長官會議

十八日は定例長官會議日なるより山縣政務總監以下各部長官局長は午前十時より總督府第一會議室に參集、通常政務に就き協議打合の上正午散會せり

◉石塚長官歸期

村田鐵務、[illegible]課長を隨へ北鮮方面に出張中の石塚長官は十九日午後十一時四十分南大門驛著列車にて歸任の筈なり

◉趙子爵避暑

子爵趙重應氏は病氣殆んど全癒の狀態にて昨今元氣に活動しつゝあるが氏は萬一を慮り休養の爲め近日京城出發金剛山の勝を探りたる後當分溫井里に避暑すべしと

◉李全北道長官

全羅北道長官李軫鎬氏は十七日夜南大門驛著列車にて入京十八日朝總督府に出頭政務總監其の他各部長官を訪問し水害狀況報告並に其の善後策に關して協議打合せを爲せり

◉村瀨氏出發

村瀨鎌次郎氏は既報の如く十八日午前八時三十分南大門發列車にて東京へ赴任の途に就けるが官民有志多數の見送りあり因に家族は一兩日遲れ出發する由

◉櫻井氏視察

[illegible]衛生の大家櫻井[illegible]氏は今回總督府より囑託を受け來鮮したるが京城より山口敎諭と共に出張、大邱、大田、水原の各地公立普通學校衛生狀況を視察の途に上れるが同氏は十六日大邱より大田に入れる筈なるが同氏は十七日午前八時より山田[illegible]原田書記同伴にて普通學校及び道學務課を視察し十八日午前五時列車にて水原に向ふ（大田）

◉仁川八田議員辭職

仁川學校組合議員八田利三郎氏は家事上の都合により十七日付を以て辭職方申出たり

◇◇◇◇申候戰爭中止岩清水◇◇◇◇

白居城將軍應戰の事

圓毛氈亂して滝の如く流るゝ驛馬の汗拭ひもあへず、商く執つたる袴の膝立そのまゝに――と言つた調子あはたゞしげに走り書きした白居城將軍より無佛居士宛の應戰狀が忠州から屆いた。公開狀の出た翌日の事。

圓早速の應戰狀、流石は白居城將軍武門の譽れを誇る身とて敵に後方をやはか見せね

申候戰爭中止岩清水

と氣負つた次には

夏木立叱咤の汗を拭ひけり

である。其處には術禪として瀟洒たる將軍の雄姿が浮び

風を切る車上句練れす時鳥

茲には才子風流の優姿がある。

圓更に『夏の夜の夢續けたり森の川』『驟雨を一氣に突貫の汗涼し』に至つては騷軍行のスケツチとして都門陣挨裡よりの觀察も許容させぬ概がある。――と此處迄書いてる處へ復又（[illegible]）

淸津

▲國境警備電話　國境警備電話線は[illegible]三十二里[illegible]神代技師出張實測を了せるが來月上旬頃より工事に著手本年十月中には竣功せしむる豫定なるが是にて滿江口より茂山迄の江岸電話線は全通する譯也▲淸津上半期貿易　淸津港本年一月より六月に至る上半期貿易額は輸移出十五萬五千七十七圓輸入九十八萬四千四百一圓計百十三萬九千四百七十九圓にして之を前年同期に比するに輸移出に於て四萬八千四百五十六圓を增加せるも輸移入に於て七萬七千六百五十三圓を減退せり之が原因は輸移出にありては水産物の增進輸移入にありては鐵道材料の減退に外ならず▲野砲實彈射擊　羅南野砲兵第二十五聯隊にては本月九日より三週間の豫定にて實彈射擊を[illegible]演習の爲め羅南附近山城山射擊場に行軍せり▲營業地域指定　咸北道警務部にては六月二十八日警務部告示を以て管內羅南會寧兩地の貸座敷營業地域を指定せるが之れ衞成地たるの關係上より早く指定せるが如く尙ほ羅南遊廓は從來の美輪里、吉野町二箇所なるも今回美輪里に指定されたる結果吉野町の業者は來る九月中に美輪里に移轉することゝなる

平壤

▲商業會議所役員會　鎭南浦商業會議所に於ては本月十六日午後八時より役員會を開催し豫算案及び書記長選任問題に付き附議したるが從前創立事務所囑托たりし松岡書記長は今回書記長たることを辭任したり▲商議役員認可　鎭南浦商業會議所會頭以下役員の認可申請は本月十日付を以て平壤府より認可申請書に不備の點ありとて却下せられたるが今明日中に補修訂正の上再申請の運に至るべければ遲くとも本月二十四五日頃には認可の指令に接するならんと▲商議豫算　平壤商業會議所認可申請は本月十日役員の認可申請書と共に總督府に提出しあれば役員の認可と前後して認可の運に至るべく隨つて書記長以下事務員（[illegible]）

開城

▲慈惠醫院巡診　開城慈惠醫院にては去十一日より開城郡內巡回診療を開始したるが診療時間は午前八時より正午十二時迄にして貧民には無料診療の恩典あり一日平均の受診者は六七十名の多きに達しあると▲校長の記念品　[illegible]二十一日まで久しく開城學校長として熱心職務に精勵したる[illegible]氏は[illegible]外の信賴厚かりしが今回龍山小學校に轉任したるが其の功勞に酬ふるため開城學校組合よりは三ツ組銀杯一組父兄有志よりは金側時計一個を贈呈する事となれり▲[illegible]敎員[illegible]

淸州

▲警務部長賜暇　警務部長は三週間の豫定を以て十七日賜暇歸省す▲警察官俱樂部創立　淸州警察官の集會所として俱樂部設置の議ありしが今回淸州在淸州警察官の會員相謀りて圍碁將棋等の娛樂的設備を爲したる俱樂部を設けたるを以て遂に[illegible]之れ[illegible]開所式を擧げたり▲醫生敎養　淸州慈惠醫院に於ては淸州警察署と協議の上各管內在住五十餘名の朝鮮醫生を招集して十七日より醫生敎養會を開き來る二十五日試驗の上講習を終了し[illegible]こととなし十七日午前十時より道廳議場にて之が發會式を擧行せり

鳥致院

▲宇都宮技師來鳥　總督府山林課宇都宮技師は忠淸南道郡守會議に列席の爲め十六日來鳥直ちに自動車にて公州に向へり▲澁谷一部長歸廳　忠南警務部澁谷第一部長は山本土木主任を從へ水害地視察の爲め出張中の處十六日鳥致院を經て歸廳▲錦江減水　十三日濁水中に沒したりし錦江橋は一度橋面を顯はせるのみにて依然たりしが十六日頃より漸く橋桁を顯はしたり▲豪雨と麥作　先月來よりの豪雨は時恰も麥收穫期なりし爲め大部分收穫を失し爲めに品質を害し收量も減じ鐵道入前增收の豫想たりし麥作も甚だしきは三四割の減收又は全く流失したる處さへあり

大田

▲會長辭任　大田協議會長內藤雄氏は十五日辭表を提出せしより十六日學校組合事務所に總會を開き承認する事に決定▲果實輸入數　批把其他一時內地より輸入せられたる果實も今は杜絕し鳳梨は其食法を知らざる結果一時多數の入荷ありたるも需用者皆無の狀況にてバナナのみは今も尙ほ毎月百二三十貫目を輸入し居れり當地に於ける普通相場は貫一圓二十錢位なり▲寺西警部長　七日來田直に七十九聯隊に至り諸般の巡視を終へ十八日大邱に向け出發せり▲松[illegible]驅除　五日松[illegible]驅除を行ひたるが其成績は面積九百三十八町三反八畝捕殺數四百五十一石四斗七升出動人員一萬二千七百八十人なりしが又本月十八日より向ふ三日間郡內各方面に手別けの上驅除を行ふ筈なり

大邱

▲安東拓大邱所長出張　安東拓殖大邱出張所長は農業視察の爲め十七日より四日間の豫定にて慶州地方へ出張▲穀物組合設立　慶北漆谷郡倭館松原森外七名の有志は慶北穀物輸移出改良組合事業以外の穀物同業組合なるものを組織すべく目下其の筋へ申請中なり▲吉村第二部長歸省　慶北第二部長吉村[illegible]は夏期休暇を得十七日より三週間の豫定にて東京へ歸省宿所は本郷區西片町二四番の吉井部なり▲丹羽青年會幹事演說　京城基督敎靑年會幹事丹羽淸次郎氏は十九日來邱同夜八時より三笠町大邱靑年會館に於て一場の演說ある筈

釜山

▲森浦檢事送別會　釜山地方法院より公州地方法院檢事正に榮轉せし森浦檢事正の送別會は去る十六日午後七時より府廳に於て催せしが出席者四十餘名にして午後十一時散會せり▲勝田總裁招宴　朝鮮銀行總裁勝田主計氏は大原秘書役を從へ去る十七日午前五時四十分著にて來釜し同日正午より釜山官民の重なる人々を鐵道ホテルに招待し午餐會を催し同夜八時三十分の連絡船にて歸東の途に就けり▲輕鐵幹部歸釜　朝鮮輕便鐵道社長以下幹部一同は去る十七日午前五時四十分歸釜▲大池會頭歸釜　大池商業會議所會頭は商船學校問題の爲め上京中なりしが十八日朝歸釜したり

人事消息

▲女子高等師範生徒一行　十八日朝北行
▲北畑德平氏（平安南道參事）同上
▲隔田[illegible]氏（東京建物會社天津支店長）十六日朝退京
▲深川傳次郎氏（新義州府尹）十八日朝入京宿に坪府後補尾旅舘へ
▲大阪商船生徒一行　十九日朝北行の豫定
▲樺正董氏（總督府囑託）十八日午後二時二十五分南大門驛著汽車にて入京せり
▲大隅[illegible]二郎氏（京東日報記者）十八日入京山本旅舘へ投宿
▲三輪憲兵中尉　十八日朝鐵原へ

法人登記

名稱　江原道橫城地方金融組合　事務所　江原道橫城郡[illegible]
[illegible]

右大正五年七月七日登記
京城地方法院原州支廳

一金五百圓　右[illegible]
大正五年七月十九日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
朝鮮總督府

私共龍山在住中は一方ならぬ御懇情を賜はり難有奉深謝候御出發前一々御拜趨可仕筈に候處御出發の際は御見送を被下又多々御禮不仕候段御海容被下度尙又本日出發の節は御見送を被成下御多用中態々御見送の存候茲に紙上を以て一應の御禮申上候　敬具
大正五年七月十八日
村瀨鎌治郎
同　ちゑ

履物問屋
井商田屋號
大路本店
大阪市御堂筋北久太郎町
電話東百十九番　振替大阪四一八八
御一報次第相場表御送付可仕
大阪履物新進會ト申テ毎月一回定期出張仕候

東洋ボツクス皮製編上靴
第三號　金三圓五十錢均一
紳士向優良品ボツクスカーフ製
同キツトカーフ製編上及深ゴム
[illegible]
送料一足十五錢
引換料二十五錢
[illegible]
東京本鄕區東片町九二
三倉商會高等靴店

日露親善
官民合同の協約祝賀會 盛大なりし大連市日露

大連市日露官民合同の日露協約祝賀會は十八日夜八時三十分より大和ホテルのルーフガーデンに於て開催さる廣さ七十尺幅さ六百六十坪の▲屋上庭園は 日露國旗を隈なく交叉し會衆約三百餘名あり開宴に先ち露國領事ツシリーエフは大内民政署長、中村滿鐵副總裁、石本市長、相生商業會議所會長等と共にホテル玄關前にて市民の提灯行列一行の熱誠なる萬歲の連呼を受け其れより宴を開き石本祝賀會委員長祝賀の辭を朗讀し次で露國領事ツシリーエフ領事起ちて日本皇帝陛下の萬歲を三唱衆之に和し後君が代の奏樂あり次に大内民政署長起ちて露國皇帝陛下の萬歲を高唱し一同之れに和し後露國々歌の奏樂あり斯くて▲乾盃を爲し 九時三十分散會す猶祝賀會にては大隈首相、露國外務大臣サゾノフ、石井外相、駐日露國大使クルペンスキー、本野駐露大使へ宛て共れ〳〵祝電を發せり此の日大連市は到る處日露國旗を掲揚し夜に入りては蕩餘の提灯行列にて市中灯の海と化し龍田町露國領事館前には群衆絶えず萬歲を歡呼し日露親善の意全市に溢れたり(大連特電)

岡男重態
病遽に革まる

新男爵岡中將の容態は十二日より急に革まり熱も三十九度に上り頗る憂ふ可き狀態となり其後一時三十七度位に下りしに十五日より再び重態となり同夜の如きは全く危險狀態となり熱三十八九度の間を上下し脈九十にして衰弱甚だしく食事の如きも更に取る能はず意識は明瞭なれども時々深き眠りに陷る事ありされば親族一同枕邊に集まり晝夜看護に努めつつあり同家の家扶は語つて曰く『閣下の病氣は誠に心配な容態でありまして從來に比較して全く重態に陷つて居る樣であります親戚の方として京し伊勢よりは令姉の杉村少將夫人が大阪より上は令弟岡五郎氏飛行將校の岡大尉及び福原大佐夫妻津野大佐夫妻等が參られて枕邊を離れず看護されて居ります』と與の樣子は靜かなる中に忙はしく來客の聲さへ低く聞ねて庭內何となく打濕り物淋しく感ぜられたり(東京)

大演習下檢分

九州に於ける特別大演習地下檢分の爲め原侍從大商書記官等一行十二名は十八日朝門司著直ちに福岡に向はれるが二十四日迄御上陸地佐世保、行在所福岡等を檢分の筈也(門司特電)

仁川の祝賀會

十七日午前十時より仁川商業會議所に於て役員會開會久水府尹與田會頭其他役員出席日露協約祝賀會開催の件に就き協議したるが其の結果來る二十二日午前中商業專修學校高等女學校商業學校小學校(三年生以上)及び普通學校(三年生以上)の全生徒の旗行列を行ひ午後六時より小學校庭天覽場にて市民一般の祝賀會を開き(會費五十錢)同七時より同所に集合樂隊を先頭に盛んなる提灯行列を行ひ市中を一周したる上大神宮に至り解散することに決定したるが當日は市中一般國旗を揭揚して敬意を表すべく尙同行列には市民舉つて參加すべしとの事なり因に提灯の入用者は會議所へ申込むべしと

仁川の初日取組

仁川に於ける東京大相撲は愈々十九日より晴天二日間興行すべく初日の取組左の如し

鎮西山・綾錦・大門岩・福柳・(稲葉嶽 朝緑)・(紫雲龍 大の川)・(綾川 釋迦嶽)
(小島 立錦洋)・一港・常の花・(宮城山 四海波)・(源氏山 九州山)・(栃木山 大錦)
(男島 玉柳)・戊瀬山・逆鉾・梅川・岩木山・(宇都宮 兩國)・(西の海 對馬洋)
(手盛洋 朝日山)・龍ヶ崎・駒泉・(近江富士 小常陸)
番外本社支局お好み (宇都宮 源氏山)

設備全く成る
仁川と大相撲

▲愈々東京大相撲は十九二十日の兩日朝鮮新聞社前の空地で興行する事となり十八日午後八時四十分杻峴驛著の列車で一行は花々しく乗込む事となつた勸進元及び藝妓連其他關係者一同は賑かに之等を出迎へるそうで有る▲己に團體觀覽を申込んで來た向は取引所及び仲買人一同大和組福島組競賣所三井物產出張所學校生徒稅關側料理店組合藝妓仲居一同であるが何れも申込みある模樣にて棧敷の如きも殆んど九分迄約束濟となつ居る▼在仁川鹿兒島縣人會有志は同縣出身の交誼を以て横綱西の海及逆鉾の三人を乘込みと同時に之を出迎へ廿日の夜慶田京記氏別邸に於てお國式の簡單な料理を以て一夕の歡迎的淸遊を試み尙西の海には銀杯一個を贈るさうである▼場內の設備は今や遺憾なく取運ばれ三千人を樂に入るゝに足るべき廣い棧敷は頭丈に造られアサヒ、サクラ、キリンなど麥酒の紅白幟を交叉し場內には森氏居〔〕連の幟しの水店及喫茶の出店等あり其の外は紅白段々の幕を廻らし表入口前には市內酒店有志寄贈の旗幟が景氣よく飾られてある▼二十日は午前七時半迄に二段目三段目の五人抜の取組を行ふ由であるが昨今の仁川は僞うして角力の爲めに引繰り返らん許りの賑かさであるが十九日朝櫓太鼓の鳴る頃には非常な人出だらうと豫想されて居る(仁川)

□袴姿の綾川と弟子「土俵の上は格別……平常は袴位は穿いて居なければ……浴衣一枚で廓の邊まで捲つて歩くなぞは力士の品格を下げると思ふ……」

角力界の學者 綾川關
▽角界蕭淸の急先鋒▽ ▽涯てもなき懷舊談▽

角力界の學者として最近『一味淸風』の著者として又學生相撲道場の師範として聞ねて居る關脇綾川は如何にも師範役然として浴衣の尻を引卷くつて歩き廻る小相撲の弟子達にまで紺無地の小倉袴を穿かせ自己も部屋に這入つて來る、彼は相撲取として仕度などには珍らしい明晰な語調で語る

◇威容端然こ◇

『私は一味淸風に書きました通り永い間風紀の頹廢して居つた角界を肅淸すると同時に角力の位置を現在よりもずつと高い處に引上げたいと思つて居ります、その實現の爲めに私は

◇隨分奔走し◇

たり努力したりして居りますが、思ふ如うには成ぬものです』それでも今度巡つて來た一行なぞは大變宿屋でも溫和しく遊で歩く如うな暢も無いではないかと云ふと『それあ、もう時代が違ひますよ昔は角力の巡業と云へば行く〳〵藝妓の總頭でも的て込んだり

◇酒漬りに成◇

つて淫らな事でも仕る如うにばかり考へられて居たんですが今ではそんな事では碌な力士には成れないですからね』と彼は語を繼いで『朝鮮に初めて巡業したのは明治四十三年の六月でした、此の年は實に我角界に一新時期を劃したる最も

◇記念すべき年◇

であります、即ち西の海關と國見山關とが中心に爲つて革命を起し遂に力士優遇法を承認させ幕內力士の隱退には千五百圓の養老金を贈る事も此の年に極まつたのでした、此の年の巡業中、昌德宮で時の韓國王の

◇上覽相撲が◇

有りました、後に考へて見ると恰度其の上覽相撲の在つた頃は、日韓併合の議が具體的に非常に取進んで居つた時であつたのは不思議な因緣だと思つて居ります』と彼はまざ〳〵と當時の光景を

◇追憶の糸に◇

手繰寄せて居る面持であつた、土俵の方では壯快なる取組と見えて盛んに喝采し動搖めいて居る『私は其の時京城で病氣に罹りまして池上病院に入院しましたが急に癒りさうもないので一行と別れて京城から歸りました、其時の京城日報で大變

◇私に同情し◇

ていろいろ書いて下さいました』彼の追懷談はそれから其れへと涯もなく湧き出るのであつた『それから二度參りました、朝鮮も斯んな風に急早に文化が發達して彼我同化に据ねぬ次第であります、今度は身體は大丈夫です是から平壤奉天長春大連等へ行く先き〳〵の學校で知つて居る丈け

◇相撲談でも◇

して些かなりとも尙武的精神の鼓吹に貢獻したいと考へて居ります、一體內地の人達よりも朝鮮滿洲に居る人達の方が一般に快濶で早わかりがして非常に賴母しい、全くこれはお世辭ではありません』

東京大相撲

▼千秋樂の盛況
總督府其他の團際見物

初日以來天氣續きにて滿員又滿員を續け空前の盛況を見たる東京大相撲の京城興行は愈々十八日を以て千秋樂を告ぐる事となれり、此の日を以て本社が懸けたる銀杯の爭奪戰も行なはるゝ事とて朝來力士連中の意氣込みも凄まじく早朝より入場するもの引きもきらず、午前中既に六分の入を見たり團體としては總督府鐵道連、教育俱樂部連等あり幕下幕內共に好取組多き事とて各番毎に大喝采を博したり

▼名殘稽古
▼流石は横綱西の海 ▼お傳役は小常陸關

愈々五日目千秋樂の朝稽古は何時もよりは寂しかつたがそれでも稽古熱心の栃木山、宇都宮、九州山、小常陸、梅川、近江富士は早くから出て來て稽古を始める、西の海は十時頃に

▼土俵に出た 之れを見た近江富士は一丁とばかり早速打突かつて行つたが些々齒が立たない、七八番申し合つたが頭投り、押出し、下手投、突き落し、上手投で子供の樣に遁らつてしまふ、之れでも大將とは二人撲の事を並べて歩いた時代もあつたのだがなあ一と三役時代の盛りを述懷する、到底敵はぬと引き下がると七八人打突かつてくるのに

▼胸を出して 一寸揉くと直ぐに蹴つて行つた九州山が出て成瀨山を相手に烈しい申合ひをしたお出羽ケ嶽がノソリ〳〵とやつてくるお傳役の小常陸が見付けて遊まれ顏をするのを無理矢理に土俵に引張り上げる、先九州山が相手になり小常陸が挑みかゝつて力を出させようと努めるが些しも本氣にならぬらしい、どうかした拍子で九州山が行司溜りの所へ轉がした時西の海や梅川や、大門岩や一湊が一齊にドーンと囃したてたので

▽御機嫌を損ね、泣き出しさうな顏をするのを『そら〳〵雨が降り〳〵』と大騷しながら今度は背め賺かして引張り出した終りに序二段の小相撲と角力はせたが、ニヤ〳〵笑つてばかりゐて力を出さぬので傍からヤイ〳〵と世話を燒く、かうして面倒を見るのは厄介なものだがそれも大いに樂しみは深いだらう小常陸は味更熱心に稽古を見てゐる栃木山は成瀨山に胸を貸し小島洋と十數番申し合つたが

▽小島の使捷も近かに栃木に掛かつては策の施し樣も無いらしい。此の日の朝稽古は活氣は無かつたけれどもそれでも九州山、小常陸等が眼りを努めて小相撲連の稽古をなり十一時過ぎまで汗と砂とに打塗みれてゐたのは愉快だつた

五日目の力稽古

相撲スケッチ 仕度部屋

餘り字十四字の發句
喜久家の先生相撲斷ちして三十一字奮念の事

◻風呂敷子に嗅ぎ付けられて知れた事だが喜久家の先生の彼の關取然とした雄姿が相撲場に見ねなかつたと云ふ事は、先生が相撲に就ては嘗て假裝行列で關取に扮裝立つた程熱心深いものがあつた丈け夫れ丈け、今度の大相撲來に就ては必ずや片千代本關と相對應して見榮のある取組がある事と夫れとなく期待されて居たのに今の樣に鹽張り其雄姿が影を消してたと云ふんだから不思議だ。其れ一體どうしたんだらう?』其れが又曰く言ひ觸しと云ふんだ相だがそんなら乾度何だらう例の其れ發句とやらにでも凝固まつて……とこお其發句も最近凝張りやれなくなつたと云ふのを聞くと餘ッ程何か曰くがあるに違ひない——と思つてると先生近頃和歌をやるんだよ、と穿する者がある。

◻何？十七字で意餘りあつて盛るべからずと云ふんで十四字增して三十一文字に宗旨を替へたんだつて？其遊女作！オット老女作か……

心だけほどけとなりて主業にはげまば未來は往生安樂

とある。流石老女作丈けあつて第一に後生安穩を願ふあたり殊勝な心掛もある。また料理屋の女將と云ふりはひを詠みて』とか何とか云ふ端書をして

……人に譏をゆするわざかな 詮なき言の言さへも身に受け

はよかつた。喜久屋の暖簾いや櫓に榮わる所以となん申し侍る。おチ

◻で、結局、相撲を斷つて念佛心三十一字に誰れ込み所願かなへさ念する處は言ふに言はれぬ姫ある譯だらう。夫れを又非常に氣する人もあるが然し一方、まるでやお茶と一緒にされて斷つの斷たのと問題にされてる相撲こそいゝの皮と云ふ奴さ——

「相撲川柳(四日目)」
岩木山三十四日は…
百人抜き六り十手八無しか…
橫綱はさすがに…
待ちますぞ早く土俵に出羽ヶ嶽

金剛山探勝會

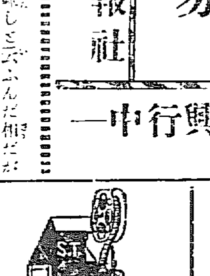
▲二十日夜行列車にて釜山出發
▲廿一日朝龍山發夕刻元山著
▲廿一日夜半出帆長箭に向ふ
▲廿二日朝長箭上陸山內見物一泊
▲廿三日朝より見物同夜長箭に引返し午後十一時出帆海路元山に向ふ
▲廿四日朝元山著同日元山觀察一泊
▲廿五日朝元山發午後京城著一泊
▲廿六日京城市內見物午後七時五十分發列車で釜山に向ふ
▲廿七日午前五時四十分釜山著解散

會費金三十五圓也(往復旅費宿泊料共)右入會希望者は二十日午後五時迄に御申込ありたし

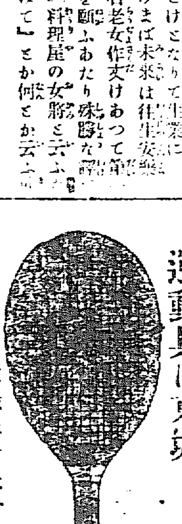
釜山本町四丁目 京城日報釜山支局 電話九三二番

東京大相撲 讀者優待 割引券 京城日報社
本券御持參の方に對しては一名限り三十錢の木戸を二十錢に割引致候
仁川興行中

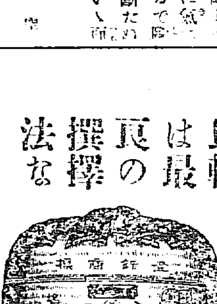
內科小兒科 入院隨意(普通病室に隔離病室) 京城旭町一丁目 小林醫院 醫學士 小林千壽 電話六九二番


衛生幻燈器械 最新衛生映畫 其他、教育、軍事、宗教、滑稽物 各種活動寫眞 大阪市新町通二丁目 寺田清四郎 (目錄呈上 送料二錢) 電話西一四三一・一四三二番

營業品目
肥料部 蒸製骨粉、乾血、脇角粉 果樹配合肥料、細工用地骨 細工用蹄角各種膠及膠原料
石鹼部 化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、洗石鹼、粉末石鹼 牛脂、椰子油、鯨油、其他 油脂類、苛性曹達、洗濯曹達
京城東大門外新設町 朝鮮肥料製造所 電話二六三番
京城岡崎町四番地 朝日石鹼製造所 電話二五六番・九七三番 振替口座京城四〇〇番


運動具は京城シノサキに有り カタログ進呈
京城本町二丁目 篠崎運動具店

德用 必 便

サクラ正宗 比較は最良の撰擇法なり!! サクラ正宗

京城明治町二丁目 山邑京城支店 電話八四一・四五〇・九四四番 振替京城五七番

婦人科 產科 入院分娩隨意 京城旭町二丁目 中央婦人病院 院長 衣笠茂 (電話二三四〇番)

暑中の進物は香晶はイクラ貰つてもコレダケは殘して置いて宅で使ふと喜ばれるから進物として絕好です!!! 無造作にスグ他へ轉贈る樣なものでは何にもならない!!
登錄商標 定價 三刄入金四十五錢 一刄入金十五錢 各地藥店小間物店にて販賣せり 發賣元 新井藥房 代理店 京城南大門通り

…し騒がりたる際行き逆ひたる高成(三七)池李天(二)外數名の護天の一階であて賊の一人は小刀を取り出し渡り切り豆汁鉢の実験を表し居るを見てりに斬り付け重傷を負はしめ階格三に捕はれ一名は逃走したり

◎婚禮の儀式と

神仙爐

「女子高師の歡迎會」

□東京女子高師朝鮮視察團一行の歡迎會は十七日午後五時より女子高等普通學校にて開催

□食卓には朝鮮料理の數々に神仙爐なども、獻立表には一々料理法を記されたるもよき思ひ着であつた

□會場の列席者には總督府學務課より弓削、小田各課長、上田編輯官、秋山視學官あり次いで中學校より柴崎校長、女子高等普通學校より太田校長、西澤、安藤、都竹各教諭の出席あり

□高等女學校よりは成田校長、佐々木、井上、坪内、佐藤、矢吹、岩本の諸先生あり

□其他淑明女子高等普通學校より李貞淑氏、淵澤女史、松本氏、進明學校より小杉、關口、今村先生の出席あり

□並いで主人側の櫻蔭會員二十名も食卓を供にし却々の盛會であつた

□席上弓削學務課長は朝鮮の教育なる問題の下に約一時間に亙る講話を試み小田編纂課長も亦朝鮮の教科書に就いて一場のおはなしがあつた

□次に朝鮮の紹介としては女生徒の試みたる砧、唱歌、童謡等が朝鮮在住者にも物珍らしく思はれる程でいろ〳〵な質物を見られたのであつた

□殊に朝鮮の婚禮式も實際の通りに行はれ謂ゆる華燭を陳べた祖先の祭壇に衣冠石帶の花婿が奠雁の禮を行ひまた眠目した花嫁が纓絡を冠り襦裙のやうな着物で出て來るのも餘程珍らしい見物であつた

□殊に式の前後の正樂の如きは鼓、長鼓、笛、横笛、稽琴の演奏が皆一廉の紳士の手に試みられたのも他にて見られぬことであつた

□斯くて午後八時の暮れ方閉會、一同は校庭にて記念寫眞を撮つた

◎水泳の季節

△となりました△

回昨今晝間の温度が八十度以上の暑さとなりました各地共水泳によき季節となりました

回京城中學校にては來る八月一日から同十九日まで西氷庫の漢江で水泳を催します

回また府内の各小學校にても尋常五年以上の男生徒は毎日西氷庫で水泳を試みます

回釜山では商業専修學校及各小學校の聯合水泳會を開き中學校は松島で始めます

回元山はまた松濤里、葛麻あたりから運動部員が大勢で昨今避暑客が押集つて來ました

回また大同江自慢の平壌では歩兵第七十七聯隊の游泳演習を初め各學校の水泳會も試みられる筈

回また木浦、仁川、鎮南浦、群山等もそれ〳〵海水浴の準備整ひ新義州では鴨綠江の水泳を試む由

□眞柏　十七八兩日明治町の馬光園で京城盆栽天狗連の第一回盆栽展覧會を催しました、此眞柏は樺山氏の出品であります

■日本で初めての女理學士

□仙臺の東北帝國大學理科大學卒業□

◇七月十七日の仙臺東北帝國大學の卒業式では今回日本で初めての女理學士が二人出來ました

◇其の中の一人は佐賀市松原町の黒田ちか子氏(三二)一人は京都下京區新町通りの牧田らく子氏(二九)で共に今から四年以前の大正二年中同大學に入學した人達であります

◇當時此の二女史の外に病氣の爲め中途退學した丹下梅子(三四)といふ鹿兒島縣出身の方がありましたが此の三人の入學は當時世間の問題となりました

◇然るに時の總長澤柳政太郎氏は大に同大學の門戸を開いて此の三女史の入學を許されましたが其の結果今回の女理學士が出來たのであります

◇初め東北大學で女子の入學を許可するに至つた動機は大學の規則中に中等教員免許狀所有者は入學を許すといふ規定がありましたのでそれでは女子でも差支無いといふ様な話が食堂の座談に出たからでありました

◇態度次第で初めはなか〳〵反對者もあつたやうですが二女史の成績は男子に比して些の遜色もなく頗る立派な結果を得ました

◇牧田らく子氏は數學科を修め卒業後は東京女子高師に教鞭を執ることに成りました

◇また黒田ちか子氏は化學科ですが更に進んで大學院に入り將來有機化學の研究に往行するかも知れません(小川理科大學長談)

◎パゴダ演奏會

來る廿日夜八時よりパゴダ公園にて演奏の李王職音樂隊第八回の演奏曲目は次の如し

□月よ〳〵!!

△朝鮮の童謡▽

朝鮮の小供は内地の小供と同じく月清き宵にはお月さまの歌をうたひます、これは女子高師の歡迎會に唄はれたもの、朝鮮語ですがお下髪の少女が兩手を組むで樂しさうにうたふのは殆んど内地と同じことでございます

月よ、月よ、明るい月よ
李太白の、遊びし月よ
あの、あの、月の中に
桂の木、生ひ立ちて
玉の斧にて伐り出して
金の斧にて削り立て、
草屋三間、家たて、
兩親迎へ奉りて
千年萬年生きたし

回海老胡瓜みぞれあへ　芝海老の頭を取りて洗ひて鹽茹でとして皮をむき酢につけ置く小指程の胡瓜を其まゝ鹽みがきをなして置き別に大根の皮と取りて一分角位のあられにきりて一時間程鹽水につけ置き布巾に上げてしぼり酢にかけて二十分程置き又布巾にてしぼりそれを器に入れて其中へ味淋と少しの鹽酢と加へ前の海老を入れ胡瓜は水洗ひして小口より切りたるを入れて和へまぜ深皿に盛る

番茶のあと

曾て中央新聞の吉植社長と自分のことをかいて評判となつた中平文子は△今度文士高島米峰氏から「私娼より劣れる女」と罵倒されて立腹のあまり名譽毀損の訴へを提起しました△併し東京地方裁判所の檢事局では『女の方でも前に他人の悪口を吐いたから……』といふ爲めか告訴は取りあげぬこととなりました

神社と教會とお寺

◎東本願寺(南山町)　十九日午後八時より例の納涼談話會あり

◎高野山別院(若草町)　廿日午後一時より大師講鬼供養あり

□青年會理事會　十八日午後七時半より西小門坂田技師のお宅にて基督教青年會の理事會開催

□仁川妙覺寺　十二年間印度及び南洋諸島を訪來し日下滿鮮巡遊説法の途にある賀島聖師氏の御説法を十八、十九の兩日午後八時より一般の來聽に供すと

—△會いろ〳〵▽—

◎勞働無料紹介成績　去る七月一日より黄金町一丁目に開設せし勞働者無料紹介所にては六日までに取扱ひたる人員は總計一百五十九人にして内内地人男女廿九人鮮人男女一百廿人也

◎釜山實習學校特典　…は本年度より夏季中鮮内學校程度以上の學校生徒乘車特典を受くる事となれり

◎元山の講演會　…八月上旬より三日間元山に於て講演會を開催…

◎女高師生徒　入京中の女子高師修學旅行團一行…は十八日午前九時十分南大門發の急行列車にて平壌へ向け出發したり

◎大阪高商生徒　入京中の大阪高商生徒修學旅行團一行十九名(内教官二名)…は十九日午前九時十分南大門發の北行列車にて平壌へ向け出發の筈

◎滿洲の温度　…低しとして十七日奉天の三十五度六(華氏の九十六度一)を最高とし…

◎覺悟の自殺　京城釜山…

◎逃亡鮮人上陸客　十七日夜入港對馬丸(二等)から西村すが…

商況

京京株式特電 / 債券現物特電 / 公債面取引 / 深川在米特電 / 東京期米特電 / 大阪株式特電 / 大阪三品特電 / 大阪期米特電 / 下關期米特電 / 雜報

●内地糖の近況

●製粉は軟化す

●現品の蓄積に腐心 會社側は賣惜み

●牛皮は持合

●持合ひ殆ど釘付状態 取引も至極閑散

●生果類軟弱 氣配は頗る軟弱

下關相場

●新小麥漸次出廻 至四圓處 二十二圓方

●燐寸漸次荷透き 在荷も減切減退

●南鮮方面乾燥不良で劣等物多し 十錢七圓見當七圓八

各地商況

京城正米

南大門の廻穀

京城雜穀

仁川現物市場

釜山穀物市場　十七日

仁川期米

▲十八日前場 昨止より九錢安 入電二節九十錢

▲高移

市場雲閒

▲依然動かず

▲小擲的商内多し

▲前場の手振

▲仁川在庫品

▲在庫品増減 増加 減少

▲鞘の關係

▲勢と仕手の關係 地場正米の趨勢

▲逆移輸入

▲大阪と無鞘に迄縮少

仁川米豆取引所

十八日の九月限

前場	
寄付	十二圓二十三錢
止め	十二圓二十一錢
高値	十二圓二十四錢
安値	十二圓二十錢
出來高	七千六百石

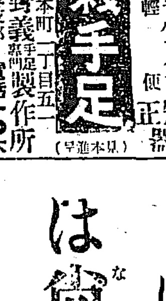
平均値段	
一節	十二圓二十二錢
二節	十二圓二十一錢
三節	十二圓二十二錢
四節	十二圓二十二錢
五節	十二圓二十錢

賣買取組高		前日と較比
七月限	五萬五百五十石	五高
八月限	二萬七千二百石	三安
九月限	四萬二千五百石	一安
十月限		二高

演藝案内

黄金館　電話一八五二(階上)二六三七(階下)
浪花館
御成座
大正館　電話八七三

質　京城黄金町二丁目(永樂町停留所北入)　堀佐營業所　(電話六三九番)



脊髓 セルロイド 輕便 矯正器　京城本町一丁目五一　高野義肢製作所　電話一〇六　舊京城太和商會義肢部　(見本進呈)

新築中と雖も營業はいたします　何卒御ヒーキに願ひます　京城新町　汲月庵　おとく敬白

期米　曽我商店　大阪堂島米穀取引所仲買人

日本一の

薄化粧料

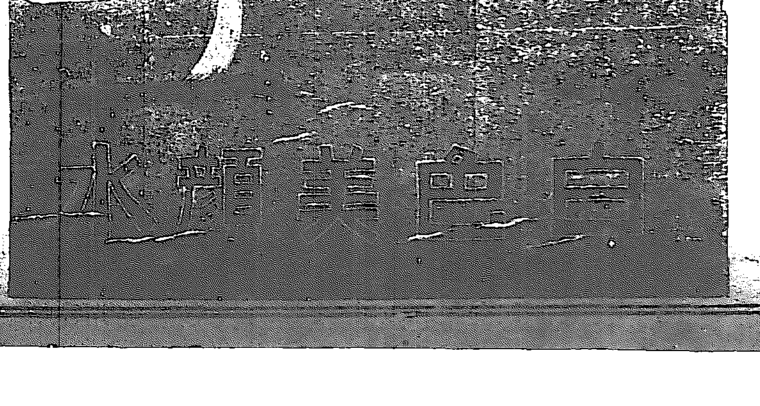
▲百人が百人ともコンナ便利なものはないとお喜びになる

夏向のお化粧として

見るから凉しげな、スツとした、垢ヌケのした、如何にも品のよい、素顔の様に見ゆる白色美顔水の薄化粧が、今東京、大阪を始め、何處へ行つても一番流行です。

暑い時分に暑くるしい舊式のお化粧は倚々いけないからです!!

(定價一瓶二十錢)



宮本武藏

第百三回　桃川如燕口演　浪上義三郎速記

宮本先生大喝一聲櫂を取つて前へ進むと、岸柳最早叶はじと思ひけん一刀を前に投出して、バッタリ大地へ尻を落し兩手を突いて 岸『最早力及ばず、宮本先生サアお約束通り此首をお取り下さい、武士の作法形ばかりのお對手をいたしました、此上は老人の冷水無益の腕立をして何の詮もなし、何卒自裁の首をお擧げ下さるやう』宮本此時櫂を投捨て 武『然らば約束通り首級を貰ふぞ』岸『ハイ』武『覺悟いたせ』と藤右馬允則國の一刀を引拔いて岸柳の側に近付き首を打落さんとなしたる此時早く、手を突いて居りましたる佐々木岸柳、右の手を延べて前に差置いたる四尺餘の陣刀を取るより早やく、ヤッと一聲横擲に引拂らつた、咄嗟武藏の兩足を切落としたかと思へば左はなくして心得たりと宮本正名、兩足を縮めてパッと飛上つたのは一年箱根の山中に於て關口彌太郎先生より教へを受けたる天狗飛切りの妙術、岸柳の刀の切尖は武藏の著用して居りましたる革袴の裾を三寸餘り切つて落さす仕損じたりと岸柳飛開からとする隙間もなく十間餘り飛上つたる宮本武藏飛下り樣に岸柳の腦上目懸けて切下ろした、アッといつて岸柳が一刀を以つて受止めやうとしたが受切れない、飛下りる勢ひで切込んだ一刀眞向から鼻柱まで三寸餘り割付けられ打倒れる『ワッ』と一聲叫ぶと等しく血煙り諸共アッといふ聲は滿陸に充滿する人々の歡びの聲二ッ木勘解由扇子を開いて『助』美事〳〵』と賞賛いたしました、武藏岸柳の上に跨つて先師の怨みを述べ肌身離さず持參いたして居ります軍刀齋の遺書を取出し、一刀の柄に卷いてブツーリ止めを刺しましたのは手を以つてせずと軍刀齋が岸柳を打ちましたも同樣、岸柳の死骸はスグに足輕が大勢來て薪旆で包んで血潮の見ねないやうにしてしまふ武藏岸柳の鬚の毛を一束切つて著用して居りました猩々緋の胴服、及び女瀧丸の陣刀を取つて一包みにいたし、之れは熊本へ持參する覺悟、右近將監忠眞侯、兩森縫殿之助を以つて宮本を之れへとお招きになる、宮本は再三御辭退いたしましたがお背入がございませんから小船に打乘つて御船の側まで漕寄せ、船縁へ兩手を突いて御禮申上げる、御盃は縫殿之助が取次ぎまして三獻下し置かれ 忠『武運に叶ひ弓矢の神の護りを受け、師の仇佐々木岸柳を首尾よく討取りしは此上もなき歡こび其方一人にあらず小笠原家の譽れなり』といふ御言葉、武藏感涙を流して 武『武道冥加にして岸柳を討取り候へども是亦偏に君の御厚恩に依る所、有難く存じ奉り候』と式代いたしました、伊織父子は胸中の嬉こび譬ふるに物なく、只涙を流して平伏して居りますばかり、君公此時に 忠『武藏、其方は之よりして熊本へ赴くか』武『ハッ上意の通り、熊本には岸柳の門人三千餘人も之れあるとの事、此儘に捨置いては恐れるに似て武士の面目相立たず、之れよりお暇を頂だき熊本へ乘込み、三千人の門人を對手に生死を爭そふ決心恐れ乍ら之れを今世のお目通りの仕納めと存じます』忠『勇ましき一言さり乍ら熊本へ乘込み岸柳の門人を對手にいたすは宜けれど若し細川家にて助勢の人數を出す時は當家の家來宮本武藏を捨殺しにはいたされぬ細川家への聞え世上の假ざり繼ぎし、當家より相當の人數を遣はしたいがどうぢや』武『其儀は平に御無用に願ひ奉る、拙者は飽までも小笠原に縁なき平の浪人となつて岸柳の門人を對手に斬死をいたす決心、御家の確執の基となつては公儀へ對して恐多し、平に此儀は御見合せ下し置かれますやう』忠『左樣か其れでは隨分堅固にいたせ、其方の武運を祈るぞ』武『一命あらば重ねて拜顏いたしますれども、先は今世の御別れ萬々年の後まで御機嫌はしく』と君公へお暇を告げ、列座の人々へ一禮いたしまして小船を漕戻しました、併し乍ら父弟にも目通りいたしましたのは熊本へ乘込んで生て歸らぬ所存、小笠原家より差廻されたる御用船に乘込んで熊本へと出帆する

南米倉町朝市場通仁濟病院跡
内科 外科 花柳病 入院隨意
上野醫院
電話二九三四番

皮膚生殖器科
平壤黄金町大同舘通
岡病院
醫學士 同 政二
電話一六九番

七月二十日九星

舊六月廿一日戊午　水命九紫南閉友引

▲九紫● 角衝突した事有日 家内見合西方は吉 ▲一白● 不本たらくの事有日 [illegible] ▲二黒● 蒙利の日 轉居開業 入門名乗求職 金件嫁娶入學校 おなしく吉 ▲三碧● 愉快の日 轉居行商 祭告話で利有 女子は獨立業を始むるに好 待人來 ▲四緑● 融和の日 轉居旅行入門 求職 金件 輸出入業開店 吉物に好の日 ▲五黄● 勇て徳を得る日 男子は職に就き女子は良縁を得る 大宿望の日也 ▲六白● 謙の日 新なる手段は [illegible] 衛生に注意せらるべし ▲七赤● かん近を生ぜんとす 勤勉手際 [illegible] ▲八白● 為事は吉 萬事實にせらるべし 有為の日 轉居旅行入學 新規事作求職金談 婚姻 [illegible]

名流婦人間に
氣品ある薄化粧用として常用せらるる
クラブ水白粉
清新ふ
初夏の氣分に最も似合はしい薄化粧用として目下一番氣受の好い此のクラブ水白粉をお使ひになれば生れ付き色艶の美しい樣な鮮かさに附いて如何にも純潔な氣品の高いお化粧が出來ますから東京でも大阪でも近來素晴らしい人氣で賣れて居ります(白色と肉色との兩種あり)

流經新藥 月經 レスノリン
閉止經過四五ヶ月以内ニ應用ノ目的ヲ達シ其作用ノ確實ナルコト他藥ニ優越ス
一瓶一圓送料 地方ハ十二錢増(切手代用ハ一割増)説明書ハ郵券三錢切手添ヘ申越次第進呈
振替大阪三六七八三番
大阪北區分捌崎 上一丁目三六番地
發行所 常盤藥院

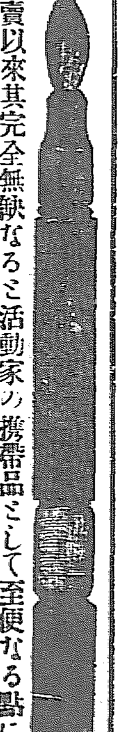
あざ そばかす ほくろ
●なるべく 症狀が澤山まいります
今スグなほせ
陸軍一等軍醫官吾尾博士先生が數年間苦心研究の結果藥を附けた處が人に知れずに害なく不思議にヨクキク藥を發見致しました是非御試の上々の實效で治療しても手キズなく一日も早くお困りの方は是非お申込み自宅療法の書物を三錢切手封入申込みの人に限り無代進呈す
東京府下淀橋町柏木百二十番地
東京博愛藥院

内科 胃腸病科
診察夜九時迄
京城本町一丁目
石川醫院
電話專用二七二九番 三三三番

無双醇良清酒
一
無害衛生 品質無双
首藤合名會社吟造
精白米御小賣 キリンビーア サッポロビーア 醤油龜甲萬 各種 シトロン 三矢布引サイダー 各種
朝鮮發賣元
首藤京城支店
黄金町(電話一一七一番)

貯蓄預金
元金百圓ニ付日歩壹錢三厘 金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店
京城黄金町 電話四二〇番 五八一番 貯金口座京城八四〇番
同 龍山出張所
龍山元町二丁目 電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

タイヨー萬年毛筆
特價發賣以來其完全無缺なると活動家の携帶品として至便なる點に於て到る處最高評を博し豫期以上の好成績を收たれば聊か謝意を表する爲め五千本を限り特價六十四錢を以て發賣仕候條此の際引續き御用命ありたし
振替貯金口座京城三〇〇番
京城日報社代理部



朝顔咲かすには肥しが大事
體肥るには次亞燐飲むに限る
夏季
▲貧血、多病、虚弱の人 病ひ易き人
▲肺病胃弱神經衰弱の人 夏痩する人
▲産前産後病後疲勞の人
暑中の牛乳代用に適當
▲貳月五拾錢 ▲小瓶八拾錢 ▲中瓶壹圓貳拾錢 ▲大瓶貳圓也
▲各藥店にあり
大阪 藥劑師 小西久兵衛 本舗

[illegible]

京城日報　第三版

米國人と支那

京城日報

北米合衆國政治家及び資本家は、近頃支那の事に熱中する甚だしく、政府資本家相依りて、支那經營を進むるを謀る所あり、偶々日露協約發表せらるゝあり、米國人の神經甚だ此に過敏なるに傾けり。

米國人中には、此度の日露協約を以て、日本と露西亞と相謀りて、支那の利權を排占し、米國勢力を排除し去らむとするものなりと解するが如くなれども、是は明白なる誤解なり。同協約第一條は、日露相共に、兩國に對抗すべき、盟約又は聯合に加入せざることを約束するに止り、第二條は、兩國の領得權を侵迫さるゝ場合に於て、相協議すべしといふに過ぎず、或は此既得權、即ち領土權、若くは特殊利益といふ内に、米國人を排除すべき意味を、含めりと為すごとくなれども、是は根據なき曲解なり。日露兩國の領土權は、租借、又は鐵道敷設に依りて定り、其事體極めて明白なり、其所謂特殊利益なるものも、亦明白なる事體に伴ふ自然の盛發にして、日露兩國の領得權と、日本及び英米諸國の根本要義たる、門戶開放、機會均等の原則とは些の相悖るところなきなり。

頃者、米國を國際財團に、加入せしむべきや否やといふ一問題あり。蓋し英國政府は、米國政治家及資本家の、支那投資の志甚だ盛なるを見て、其を孤行索行せしむるよりは之を財團に加入せしめて、共同一致の行動を為さしむるを、相互の便益なりと認めて、其を勸誘したるに起因す。初め日本及び英佛露獨米六國は、支那に於て、國際財團を組織し大凡支那に對する財政問題は、此團體にて之を處理するの方案を定めたり然るに北米合衆國政府は、之を以て支那の内政に干涉するの傾あるものと為し、千九百十三年、此財團より脫退したり、蓋し當年の國務卿ブライアン氏が、絕對的に支那問題に繫累を避けむとしたるに是れ由る、然るに今日歐洲諸國は、戰爭に忙はしくして、支那の事に干繫するの餘力なく、之に反して米國は資金充溢し其投資の道を求むるに是れ急なり、現國務卿ランシング氏亦支那經營の意圖あり、是れ其の最近に至りて、頻りに銀行家を說いて、支那の事に從はしめむとする所以にして、我日本も亦た、我同盟國たる英吉利も、決して米國の支那經營を妨閼するの意なきのみならず、寧ろ之を引いて其事を共にするを希望して已まざるなり。米國人たるもの、徒らに危惑を懷くことなく、虛心坦懷日本及び英吉利と、其事を共にするあらば、其功業を成すこと甚だ容易なるや論なし。

城壁文學

小田省吾

(第六)京城都城の諸門

甲、都門總說

(三)甕城に就て(續)　尙此の外朝鮮内の邑城で甕城のあつたと聞いて居るのは咸北に鏡城、慶南の東萊で、現に存して居るのは京畿の水原であるが、前者は多分李朝の初期後者は其の中世及び其の以後に出來たものであるから、甕城の起源を究めんとするには高麗都城の由來に遡らねばならぬ。甕城の形にも種々あつて、開城宣義門の甕城は方形に凸出し其の前面中央に正門があつて、南北兩側に通用門があつたとの事である。鏡城邑城の甕城は弧形をなして門の前面に凸出し、入口は其の偏側にあること京城東大門の如くであつたと聞いて居る。東萊邑城南門の甕城は遙か後世のものだが、方形に凸出し、其の前面中央に洪兵門、其の奧に南門があつたのである。水原邑城はさすがに兩者を兼ね備へて、八達門、長安門は半圓形の甕城で門の前面を蔽ひ、其の中央に晴門がある。蒼龍門、華西門は東大門のやうな弧形式である。此の半圓形晴門式は今日支那北京城の周圍に見る甕城に酷似して居るから、所謂中華の都城に模倣したものであらうと思はれる。(内に此處にいふ開城の都城は現在の開城市街の周圍に殘存せる石築の城壁ではない。此の石築の城壁は内城と稱して李朝太祖の三年漢陽都城を營む前に新に造られたものである高麗期の羅城は土城であつて顯宗の二十年(今距八百九十七年)に築いたもので、更に内城の外周を蜿々長蛇の如く續つて居つたのであるが、今は田畑、丘陵、山背に亙つて僅に其の痕跡を止むるに過ぎぬ。當時高麗は宋と使節相通し、宋使は禮成江の碧瀾渡より上陸して開城に向つた。されば今日碧瀾渡より土城を經て開城に通ずる道路は當時の勅使街道であつて宋使は常に此の宣義門より都城内に乘り込んだのである。されば此の門は特に壯大美麗を極めたことが高麗圖經にも記され、高麗史研究上大切な遺蹟である。幸にも直ぐ其の傍を通ずる新道開鑿の難も免かれ、又丁度其の下の地中を通ずる鐵道トンネルの厄に罹らず、今日に殘存して居るのは眞に斯界の天祐とも謂ふべきものである。此等は先日發布になつた古蹟及び遺物規則の臺帳に登錄されてほしいものである。尙此の門は一に五正門といつたから現今でも其の門の附近を午正里と稱し、門址の位置は開城の市街から西方約十五六丁の地點に當る。(此項完)

製鐵事業將來

本邦一箇年間の鐵消費高は百二十萬噸の多きに達し其内にて内地產に係るものは三十萬噸に過ぎず九十萬噸の鐵材は皆英國若しくは米國其他より輸入に係るものに屬す歐亂の影響は遂に本邦の斯界に及び鐵價の暴騰につれて新設製鐵會社の勃興を觀るに至り少くも本年末に至らば從來の消費高に對する四分の一の製產額に過ぎざるものが三分の一位の高に達すべき模様にて漸を以て進むの觀あり枝光製鐵所亦五千萬圓の資本を一躍八千萬圓に增資して世界の大勢に順應し居れるを以て全部機械の据付を見は僅に消費高の二分の一位に達するに至るべきか漸年消費高も增加しつゝある事なれば何時迄も從來の百二十萬噸の消費高を以て律し難し大體外國よりの輸入は從來に於て鐵材のみの計算にて三十萬噸なれど其他に機械即ち既成品となりて輸入せる高二十萬噸の多きに達し居れるを以て其の高五十萬噸に垂んとす本邦製鐵事業家は外國品の輸入を防遏するを以て根本方針となせるが如きも實力の之に伴はざる又如何ともすべからずされど各製鐵業者の該事業に精力を注入し居れるには現時各方面に於ける製鐵會社の事務進捗に觀て明なる事なり要は將來官民合同的大製鐵會社の實現を望むものにして然も素質の優良なるものを製出する事を心掛くるの要あるべし(大阪支局)

印度の水利事業

世界的農國は斯して其根底を確立せり＝坂出鳴海氏談

△交通運輸機關 の周遠は市場に對して農產物の集散を容易ならしめ、彼此相融通の途を得て饑饉地方の難者を救濟せしこと幾何なるを知らず、政府の發す處鐵路の周遠面已を以てして優に二十五億萬圓以上に達せりといふ。然れども農產の增殖、饑饉の救濟は單に交通機關の發達にのみ俟つ可きにあらず、斯くの如きは畢竟間接的施設にして必ずや其の根本政策なかる可からず、之れ即ち水利事業にして印度が今や其の大成を收め世界的農國として羨望を鍾むる所以なり。印度富源の開發が前途の如く氣候的關係より水利灌漑の設備に俟たざる可からざるは當局の夙に着眼せる處にして總督府は勿論其の地方廳たると人民たるとを問はず極力

△之が大成に努め來れる狀況は吾人の思ひ半に過ぐるものあり

抑も印度の平原を大別すればガンヂス並にインダス河の流域一帶、デッカン高原地帶、東部海岸、南部マドラス地方の五個に區畫するを得可し、而してガンヂス河の流域は土地平坦にして雨量も同河は四時事を絕たざるヒマラヤの山中より其の源を發せるが故に水量極めて豐富なるを以て大小無數の運河を開鑿して同河の水を引用し得べく、西方インダス河の流域には所謂シンドの荒蕪地あり、恰もナイルに於ける埃及の如き地方にて殆んど降雨なきも、同河も亦絕へずヒマラヤの雪を流すを以て之れに運河を開通、灌漑する事を得可し又た半島の中央デッカンの高原地帶は山間部に大小の堰堤をもつて高原西方の豐饒なる雨水を貯藏し

△乾燥季に給水 するの他なく、東部海岸地方に在りてはキストナ、ゴダバリ兩河の水を上流より吸引、用水し得可きも、南部マドラス附近は地勢起伏常なきを以て大小の溜池を築造し、之れに依りて原野に給水するの外なし。今灌漑の方法に依りて印度の水利地積を案ずるに在來の井戶に依りて給水するもの約四百八十萬町歩、溜池に依るもの約五百二十萬町歩、河水の引用即ち大規模の運河に依るもの約六百八十萬町歩にして其の蒙利面積總計約一千六百八十一萬町歩とす。而して井戶は總て個人の經營に係り溜池も亦規模小なるものに在りては概ね個人の築造する處なるも、河水引用は其の大部分政府の施設に係り、規模大なる運河及び溜池は地方廳若くは水利組合の施設に係り、大河を引用せざる灌漑運河と大規模堰堤による貯水池は大部分政府の經營に屬す(未完)

黃の煙

□失敗の成功

世間で所謂失敗と云へる言葉その者が、一の矛盾的な意味を裏にして居るが、人間の歷史に徵すると此の矛盾が眞實である事を證明する。最も古い話で而かも最も良く知られて居る例は、彼のモーゼの成功的失敗である。モーゼは四十年の長い歲月の間その民を約束の聖地に導くべく荒野を引つ張り廻したが、未だ到り得ざるに彼は死した。民を束縛より解放した偉人、イスラエル國の建設者、其の法律と政治とは今日西半球の總ての國々のみならず、東洋の一部にまでも感化を與へたところの政治家たるモーゼは、自身の生時には確かに人として最も失敗した境に在つた。けれども彼のジョーヂ、エリオットがアダム、ビードをして言はしめた如く彼は終始困難に遭ひ通して死んだが、その代り外の人が其實を收穫した。結果モーゼの失敗の成功であつた(ニユーサーチマガジン)

京日詩壇

○細雨　雅島　紫峰

湘簾微雨落花香。柳縷如烟樓半歲。自笑一年無事客。手分茵菊太多忙。

評曰　幽靜閒雅、引人于遠。

○聽鵑　安永　春雨

蜀魄頻呼夢魂驚。春雨欲晴天欲明。獨出柴門多柳色。落花滿地不留聲。

評曰　一片神行、杜絕刻劃。

日報歌壇

□若葉の歌　鈴木吉郎子

ほそ／＼と淺夜の蛙鳴きつゞきこゝろ空しく夏に入りけり

すがれたる薔薇の花の香も淋びしわが病み伏せる閨の小窓に

夏の日の夕立まへの空よりも靜けしかなたの人始みする

誰もなき思ひ出すてよと夕風は若葉の葉をさわやかにゆる

のあやまちに湧ける淋しみ

禁制の池に浴みし科によりこの頃我になく不圖來し方を顧りみて此げきこそ今報ひ來ぬ

あなけうと惡性者のしのび來て嘆きの蔟をまた投げて行く

淚まづ何より先に溢れきぬわれと我が身をあざみわらへど

監修 倉橋惣三先生

日本幼年

八月號 定價拾貳錢 郵稅壹錢 半年七拾五錢 壹年壹圓四拾四錢

お母樣方に―

▽子供に與へてよいものと、與へて惡いものとがあります。其選擇の役目は、是非ともお母樣方でなければなりません。殊に、子供の心性に、直接間接深刻な感化影響を及ぼす繪雜誌の選擇は、お母樣でなくて、誰れに此重大な役目がつとまりませう。『日本幼年』は、兒童研究の大家倉橋惣三先生が一つの繪、一つの言葉にも綿密な注意を拂つて監修せられた美しい子供の繪雜誌であります。安心して、子供にすゝめられる教育的玩具であります。大切な大切なお子さん方の清い無邪氣なお友達であります。

東京 京橋 東京堂 振替四千九百番 全國書店賣捌

日韓書房 新版報告

永井著 人性論 定價二圓 送料十六錢
平井著 日蓮 定價一圓 送料十錢
橫山著 高杉晉作 定價一圓 送料十二錢
碧梧桐著 日本之山水 定價四十錢 送料十錢
尾崎紅葉 幸田露伴 校訂 西鶴文粹 定價一圓 送料十錢

京城本町二丁目 電話一四一・五 振替二二七五

謹告

大正五年五月三十日以前弊社代理部發行の書籍券所持の御方は本日より向ふ三十日以內に相當書籍と引換方御申出で相成度同期日經過後は斷然無效と可致候條此段謹告候也

大正五年七月十七日　京城大平通一丁目　京城日報社代理部

池邊義象先生 落合直文先生 共著

改訂增補 新撰日本外史

中判洋布上製函入 紙數壹千三十餘頁 精巧挿畫七十個 正價壹圓四拾錢 郵稅十二錢

開闢より大正御大禮に至る

本書は明治國文學復興の先唱として泰斗と仰がれたる兩先生の著にして多年我が國民性に偉大なる感化を與へて世の稱贊を博し既に版を累ぬること三十餘に及べり。爾來代は大正と改まり更に池邊先生に請ひて其足らざるを增補し同時に初版以來の魯魚の誤を訂し且つ體裁を革め大に其面目を一新して茲に現はる。記述正確にして詳密を極め殊に其文章に至つては著者絕特の本領を發揮して優麗暢達一讀再讀愈々妙に趣味雋永自ら人の心膵に沁す、青年士女の良伴侶として家藏戶誦の國民讀本として洽く江湖に薦めんとす。

萬戶必備の家庭讀本

福島大將 上村大將 題字　大將 序文　田中中將

綿貫仁門君著 戰場秘話

正價四十八錢 郵稅四錢

田中中將の本書序文……(前略)諸勇士の歷戰談中より最も興味多く且敎訓に富めるものを選錄せしものにして其壯烈勇敢なる事蹟は眞に懦夫を起たしむるに足る……予は國民就中春秋に富む青年諸君が各自修養の資料として本書を一讀せんことを切に望むのである。……以て本書の價値を觀ふに足るであらう

實業青年 成業の要義

一木內相 河野農相 添田總裁 澁澤男爵 森村男爵 高橋男爵 大倉翁 日比翁 安田翁 中野會頭 鎌田學長 池田頭取 十二大家合述

【內容梗概】人生の根本義　立志修養眞髓　就職服務要義　致富出世秘訣　實驗の處世訓

定價六十錢 郵稅六錢　東京本町 博文館

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城 朝鮮銀行

支店出張所 東京、大阪、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春、開原、四平街

右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

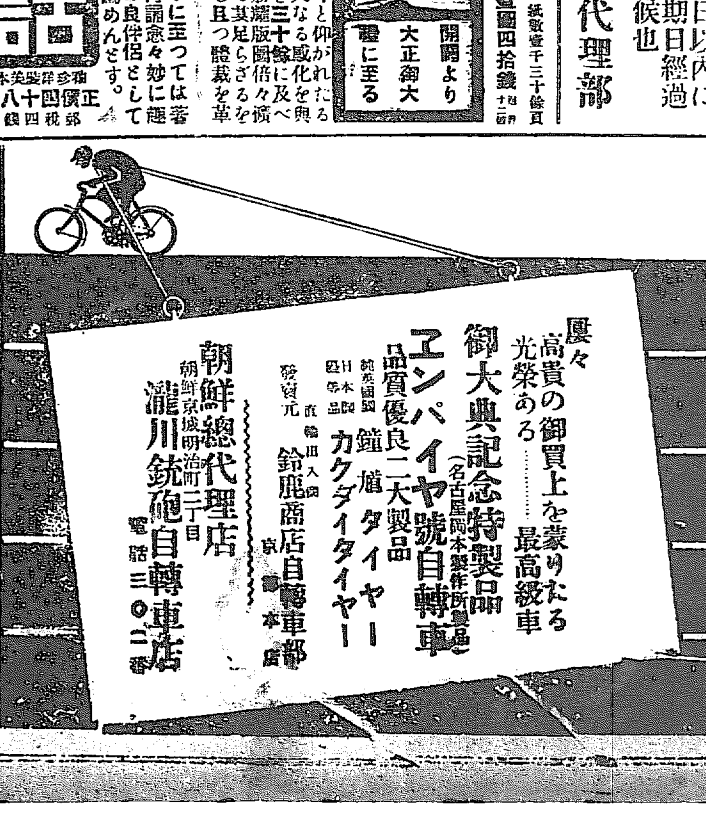
新刊 『舌三寸の活殺』著者 橫溝蘇堂先生著 男女の結合 正價七拾五錢 送料八錢

結合と離散―之れ人の世のすべてに非ずや。男女の結合―之れ必ず結合すべきにして何等の奇あらざるが如し。而も此奇あらざるが如き處よりして、悲劇生じ、喜劇生ず。悲か喜か、天機容易に洩らす可らず。

新刊 陸軍步兵少佐 平井正道殿著 兵營生活 正價六拾錢 送料八錢

平井少佐が趣味ある平易の文章を以て、精細親切に兵營生活の實際を說けるもの、入營前の壯丁諸君は勿論、在營兵士及在鄕軍人の好箇の參考資料たるべく、一般國民と共に一讀すべき快著なり。

東京 東亞堂 振替東京一一七　京城 日韓書房



總ゆる家庭に適合せる今にして初めて現はれたり

軸製 最新日本地圖

五大特色 實用附錄 最新 精細 善美 恰好

定價七拾錢 初版に限り 特價五拾錢

發行所 東京本鄕區眞砂町 遠友社 振替二七三九二番

賣捌所 東京 東京堂 大正堂 大阪 盛文堂 全國書店

▲後場の手振

▲展開未だし

陸軍論功

大正三、四年戰役に關係せし左記陸軍將官に對し十八日左の如く論功行賞發表されたり（東京特電）

陸軍中將從四位勳二等功三級 村岡恒利
同 上 大庭二郎
授旭日重光章（賜金二千三百圓）（各通）
陸軍中將從四位勳二等功三級 柴勝三郎
同 上 河合操
陸軍中將正五位勳二等功三級 福田雅太郎
陸軍少將從四位勳二等功三級 武內徹
陸軍少將正五位勳二等功三級 尾野實信
授旭日重光章（賜金二千九百圓）（各通）
陸軍少將正五位勳三等功二級 若見虎治
叙勳二等授旭日重光章（賜金二千百圓）
陸軍少將正五位勳三等功三級 町田經宇
陸軍少將從四位勳四等功四級 宮田太郎
叙勳二等授旭日重光章（賜金二千圓）（各通）
同 上 筑紫熊七

御眞影並勅諭

師團守備隊病院へ下賜

聖上陛下には畏くも近衛師團及び第一師團より十九師團の各師團並に臺灣守備隊各衛戍病院に對し御眞影並に勅諭下賜の御沙汰あり大島陸相は十八日午前十時各師團及び朝鮮、臺灣守備隊各代表者を本省に召集し右御眞影及び勅諭傳達式を奉行せり（東京特電）

賜金二千五百圓
同 功四級 橋岡金太郎
同 勳四等 淺岡滿俊
同 功三級 中島誠之
同 上 河村正彥
叙勳二等授旭日重光章（賜金二千圓）（各通）
陸軍少將正五位勳三等功三級 山田隆一
叙勳二等授瑞寶章（賜金一千圓）
同 上 菊池愼之助
叙勳二等授瑞寶章（賜金一千五百圓）
陸軍少將正五位勳三等功三級 鈴木朝資
授旭日中綬章（賜金二千三百圓）
同 功四級 松浦善助
授旭日中綬章（賜金一千五百圓）
同 上 江川誠
授旭日中綬章（賜金二千三百圓）
同 功三級 中川幸助
授旭日中綬章（賜金二千三百圓）
同 上 宇垣一成
授旭日中綬章（賜金九百圓）
同 勳二等功四級 佐藤鋼次郎
賜金五百圓
陸軍少將正五位勳三等功四級 菅野尙一
賜金二千六百五十圓

同 上 永山元彥
同 上 內藤辰二郎
賜金三百圓（各通）
同 上 田村沖之甫
叙勳三等授瑞寶章（賜金一千五百圓）

海軍行賞

大正三四年戰役に關係ある海軍將官に對し行賞發表ありたり主なる者左の如し（東京特電）

海軍少將正五位勳三等功三級 佐藤鐵太郎
同 勳三等功三級 竹下勇
叙勳二等授旭日重光章（賜金二千三百圓）（各通）
同 上 中野直枝
同 正五位 秋山眞之
叙勳二等授旭日重光章（賜金二千五百圓）（各通）
海軍少將正五位勳三等功四級 江口鱗六
同 上 吉見乾海
叙勳二等授旭日重光章（賜金一千七百圓）（各通）
同 上 小栗孝三郎
叙勳二等授旭日重光章（賜金二千五百圓）
同 功三級 關野謙吉
同 功四級 田中耕太郎
叙勳二等授瑞寶章（賜金一千圓）（各通）
同 從三位子爵 小笠原長生
賜金千圓

勳章親授式期

來る廿日宮中に於て日獨戰役論功の勳章親授式を行はせらる可しと漏れ承はる（東京電報）

植民地機關

政府は植民地諮問機關設置の件に關し協議中なるも贊否の多からん事を慮れ稍々行惱みの狀態にあり（東京電報）

選擧防止法 新設

選擧訴訟を根本的に防止せん爲め選擧投票用紙を內務省より配付するの件に就き協議中なり（東京電報）

書類紛失事件

佐世保海軍工廠に於て水雷關係機密書類紛失の容易ならざる事件發生し目下其筋に於て嚴密なる搜査中也（長崎電報）

福田中將露都著 到

軍事視察員福田中將の一行は十五日露都に到著せり（露都電報）

叙位

十八日左の如く叙位發表ありたり（東京特電）

京城專修學校教授 朴容喜
叙從七位

副總統問題

來る國會に於て選擧さる可き副總統に段祺瑞氏を擧ぐ可く某有力者が運動しつゝある事は一般に傳へらるゝ所なるが是れは國務總理の一席を南方に讓り唐紹儀氏を此に當らしめ以て南北權力の平衡を維持せんとの意あるも反對者は段祺瑞以來武人大權を把り特に今正副總統共に軍人出身とする時は武人專權の端を開き共和の本旨に背反すと難じ更に又南方中には唐紹儀氏が今度擧義の魁首にて共和再造の元勳なれば高位置を與へざるを得ずと主張し或は徐世昌氏は南北共通の聲望隆高の大元老にて今後の時局收拾には氏の外に其人なしと主張しつゝあり此他岑春煊、梁啓超、馮國璋諸氏あるも岑氏は昔て出ずて了ひ梁氏は猶今少し資格足らず馮將軍には贊成者尠く結局以上三人中なる可しと云へり（北京）

鮮滿運輸近況

六月中に於ける鮮滿聯絡貨物狀況を見るに

內地發哈爾賓著 七九六噸二
朝鮮發哈爾賓著 二六二、四
合計 一、〇五八噸六

にして前年同月に比し八百十八噸餘前月に比し八十七噸二の共に增加を示し前月通り哈爾賓發のものは皆無なり內地發哈爾賓著の貨物中主要なる品目を擧ぐれば

綿布三五四噸（前月に比し一六〇噸增）メリヤス製品一八〇噸九（八一噸九增）綿絲四六噸八（[illegible]）[illegible]

等にして朝鮮發哈爾賓著のものは少の乾魚、雜貨を除きたる他は總て米なり倘同月中最も注意すべきは內地發哈爾賓貨物中久しく影を潜め居たる關貢米が新に十三噸餘の輸出せられたる事にして今後の消長亦注目に値すべし

檢米上の一問題

受渡に關する問題を惹起せんとす近日來定期受渡米たる他道檢米地の檢査濟米が仁川に廻送されつゝあり而して其過半は已に廻著を了し倘一二檢査地より廻送し來るべきもの未著なるが是亦最近到著する見込なる過般江景及び論山兩方面より廻著せる檢査米が包裝不完全なりし爲め仁川にて入替へを行ひたる事實あり右廻著米は仁川米穀檢査部に對し檢査を申請し來りたるにより同所檢査員は直に嚴重なる檢査を行ひたるに其結果江景及び論山兩地の檢査所に於て格付したる上格米が仁川の檢査に於て一割一分強の夾雜物を含有せる理由により不合格としての決定を與へられたるが仁川米穀檢査部の方針としては他道檢査地の檢査を尊重する意味に於いて輕々に檢査を爲さざる事は勿論なるが前記兩地米の如き包裝不完全にして且格付消印の不明瞭なるものは止むなく再檢査を行ふ事往々あり而も檢査の結果屢々格違ひの不正物多數あるを發見し恐らく從來廻著せし他道米にして全部再檢査を行ひ來りしならば檢査の結果不合格を見しもの多數ありしならんと擬る仁川定期受渡米は他道米共大部分を占むるものなるが故に前記の如き事實より推定するときは不合格該當事項に抵觸するもの多かるべきを思料す現に今回他道各地より廻送し來る檢査米の正否如何は仁川に於ける受渡しの現狀により充分査定し得る事なるべし而して前記の如く今回は單に江景及び論山の兩地に止まる事は小なるが如きも從來は各地檢米の成績如何を明に調べし得る好機會なりといふべし斯る結果を見るは畢竟各地檢査標準一定せざるによるものにして現に或道の如き半折及び死米等を夾雜物と見做し居らざるが如き事實あるが故に遂に今回の如き誤格を生じ該地の上格米も仁川に於ける不合格米となるが如き結果を來すものなるべし故に此の際各檢査地に於ける夾雜物の標準を一致せしむることは米檢上緊急の問題なるべきを信ず今試みに仁川檢査部規定による夾雜物を擧ぐれば石礫稗半折、死米、粃米等にして凡て形をなさざるものを夾雜物として取扱ひ居れり倘今回廻著せし江景及び論山兩地米の格違ひより受渡上に一問題を惹起すべく思はると某當業者は語れり（仁川）

市區改正と公園

京城市區改正は大正八年を以て其の大略を了る筈なるが當局にては之れと共に豫ての懸案たる公園設置問題を解決せんとの意嚮あり、東大門內訓鍊院の空地を放任せるも之れが爲めに同所に對しては未だ具體的計劃あるにあらざれど大體之を日比谷公園に擬し園內には野球其他の大運動場を設けむとするものゝ如し

各縣へ移民勸誘

殖民課長等の出張

東洋拓殖會社第七回移民募集中の處本年の應募民は昨今の申込未だ五百戶に充たず募集總戶數千五百戶には未だ三分の一にも充たざる狀勢なるより會社にては第二次移民勸誘として植民課長村上秀一氏は兩三日中往復約四十日の豫定にて岡山香川愛媛各縣へ又石川岩記は前週出發三重愛知福井三縣へ出張せしが兩氏は各縣及び可成各大農村に赴き一々移民の狀況を說明し應募勸誘を試むべく村上氏は愛媛縣にて半農半漁移民をも特に縣當局に付希望者選定方を交涉すべしと

釜山の工業界

▲木材界の好況 釜山に於ける木材商は總計約二十人にして表面の輸入額は一箇年約四十萬圓なるも實際の價額は優に七十萬圓以上に達すべく而して昨年の昨今と本年の昨今とを比較すれば本年は輸入額に於て約二三割の減少を見るに至りたるも價格は是と反對にて昨年よりは二三割の騰貴を見るに至りたるが原因は內地に於て諸種の工場等起りたる爲め供給の割合には需用多く又朝鮮にては大邱、大田、龍山等に新たに兵營建築の爲め是に要する木材の需用等外多きも內地よりの輸入是に伴はざる爲め所謂需用供給の關係にて價格も亦た約二三割の騰貴を示したる次第にして目下の釜山木材界は頗る活氣を呈しつゝあり

▲セメント騰貴 歐洲戰亂の影響にて今春二月來セメントの騰貴甚しく去二月頃は一箱三圓二三十錢なりしが目下は一箱五圓二三十錢位にて今春來六たび騰貴せしが昨今東京地方にては一箱七圓の高價を示しつゝあるを以て輸て釜山のセメント界も是が影響を受くるに至るべく釜山府一箇年の需用額は僅かに一萬箱位に過ぎざるも同地より北韓及び京釜線地方に輸送する者を合すれば一箇年約五萬箱にして其の需用も繁く外少からざるが本年は殊に兵營新築の爲め大田等に於ける需用も頗る多く是が爲め釜山セメント界は近年稀れなる好況を呈しつゝあるが目下釜山の在庫品は約二千箱位なりと（釜山）

价川輕鐵成績

此程本運輸の認可ありたる新安州价川間（十八哩四）輕鐵最近十日間（七月一日乃至同十日）の運輸成績を見るに乘客人員千三百七十五人、小手荷物斤數六十一斤、貨物噸數千四百八十六噸、客車收入四百二圓三十七錢、貨車收入千七圓九十錢、運輸收入千四百十圓二十七錢一日一哩平均七圓六十六錢四厘なりと

裁判事件數

本年一月より五月末に至る裁判事件を見るに民事は地方法院及び其の支廳を合し新舊受理件數十五萬七千三百九十件にして既決十五萬四千五百三十六件、未決二千八百五十四件を合し覆審法院は受理件數新舊を合し一千百八十九件、既決七百三十七件未決四百五十二件にして受理數は前年同期に比し兩者とも多少の增加を示せるが高等法院は新舊受理百六十八件、既決百三十九件、未決二十九件にて前年に比し減少の氣味あり、又た刑事は地方法院及び支廳を合し受理一萬五百十四件、人員四千六百六十一人にして既濟九千九百七十九件、一萬三千七百五十九人を算し其の內無罪免訴となれるもの二百三十八件あり覆審法院は受理數九百四十四件千百四十一人、既濟八百九件、九百六十一人にして受理件數は前年同期に比し兩者とも增加し高等法院は受理八十九件、百四人、既濟七十八件、八十九人となり受理件數は前年同期に比して多少減少せり

京綏線連絡と北京

日支聯絡旅客にして支那京綏鐵道に發著する者は從來豐臺又は北京の正陽門及び西直門の何れの驛に於ても乘繼ぐ事を得たるも自今正陽門驛を以て之が接續驛とし日支周遊券附屬同線割引證も正陽門驛に於てのみ發賣する事となりたり

最近燐寸商狀

今春一二三月に亙りて豫想外多數の入荷ありし爲め各種の燐寸は其後著しく相場の暴落を來し爾來三箇月以上を經過せる今日に至るも停滯し居れるが如き現狀にして近來商行は相當にあるも各地方は一時該相場暴騰の爲め仕入を躊躇せし爲五六の兩月は賣行殆んど無かりしが昨今漸く荷動きを見今春一二三月の入荷にして今尙京仁間商人の手に殘存せる商品あるも京阪地方と京仁間との相場折合はざるが故に近來移入者無なるが八月中旬頃迄には京仁間の手持品は賣盡さるべく而して其頃に至らば內地相場と準ずるなるべく豫想され居れり目下京仁間の相場は一箱（二十ダース入）五圓六十錢（關稅共）の高値を唱へ居れるも內地相場は實に五圓餘を呼び居り該一箇月も經ば漸時引直すべし京城現在の手持筋にして倘前記の爲め投資に出づる向あり前記の相場を以て仁川及び各地と商取引せられつゝあるを聞けり目今內地の相場前記の如く不引合の爲め移入を見ず尤も近來移入を見る少許の品物あるも右は前々取引契約の商品のみなるが越月の上は順調なる商取引行なはるべき見込なり（仁川）

仁川檢米狀況

七月一日より同十五日に至る期間仁川檢査部に於ける米穀檢査の結果は槪して良好にして今期間に於て嶄然優等米二千五百石餘を出したるが這は彼の東拓米にして京畿道水色生產に係る小粒神力種の二回に渉りて奧田精米所に廻著せるものなり而して之が査定の結果乾燥は殆ど標準米を超度し夾雜物含入歩合は百分の一、五なるが目下米穀趨賣期に入れる折柄斯る優良米を見しは稀有の事なり倘廻著米は前月に比し檢査數量に大差を見ざりしも驟著しく增加したり道は忠南黃海沿岸慶南北の各道よりの廻著にして米豆取引所受渡米に當てらるべきもの其大部分を占め居れり

府稅と差押勵行

京城府に於ては大正五年度第一期分市街地稅に對しては疾に督促狀を發付し既に指定期日經過したるを以て財產差押處分に著手し居る次第にして家屋稅に付ても來る廿二日を期し督促狀を發付する計畫なれば怠納者は此の際至急完納す可く本年は例年の京城府の納稅成績不良なるに鑑み從來の寬大なる取扱ひを變更し差押へと同時に物件を引上げ臨時公賣に付する手配なる由なれば怠納者は一層の注意を拂ひ不慮の損害を蒙らざる樣各自注意す可しと

教員講習會

小學校及び普通學校內地人敎員講習會は二十一日より三十一日まで京城中學校に於て開催のこととなれり本年の受講者は七十五名にして每日午前八時開會、正午終了の豫定なり

單級教授講習

京城中學校附屬小學校並に[illegible]單級敎授講習會[illegible]十九日を以て終了に付き引續き前記二箇所に於て第二回講習會を開催の筈なり同十日間にて二十一日より開會十一日終了すべし

人事消息

▲中山[illegible]氏（大邱覆審法院長）十八日夜入京[illegible]
▲平塚[illegible]氏（[illegible]）十八日夜入京[illegible]
▲石井百三郎氏（同）▲村井啓太郎氏（同）[illegible]
▲[illegible]

圖南書北語

故キッチナー元帥の後を襲ひ英國の陸軍大臣になつたロイド、ジョーヂ氏は何と云つても當代の大政治家である▲大藏大臣當時には所得稅改正案で上院を屈服せしめ遂には上院に就ての大改革を行つて金錢的法案に就ては上院の權限をなくしたと云ふ英國憲法の大改革をやつた▲其れから戰亂勃發と共に軍需大臣となつて敏な頭腦と鋭利な手腕を諸方面に振つて遂に聯合軍をして今日の攻勢に轉ずる樣にした▲今度は陸軍大臣になつたので又々非凡の腕を見せるのだらう▲其行く處として可ならざるなき處は鳥渡近來の政治家には見られぬ處がある流石の米國も比律賓には大分持て餘して先達は放棄論迄持ち上がつた程だ▲一體比島は頗る不健康の土地で總人口の九割は病人である▲のみならず癩病が非常に多いので總督は島南ハシラン島へ大規模の癩病院を建て全島の癩病者を悉く收容して居る▲成る程之ぢや手古摺るのも尤千萬貰ひ人も鳥渡あるまい▲獨逸潜航艇ドイッチランドは愈々商船と決定したらしい▲其船賃は一人前五千弗だつたが相應に乘客もあつた相な▲例へ五千弗の熨斗をつけて冒險をやるのは餘ツ程の物好きもあつたものだ▲其癖戰爭に行くとスグ軍器を投げ出し兩手を上げて降參するから人間と云ふものは妙なものだ

匪賊討伐論功

[illegible]治今井茂吉▲他新義州[illegible]三名各十圓[illegible]

手を取つて教へるよりも上手になる

惡筆矯正器進呈

字の下手な爲めに[illegible]此矯正器はどんな惡筆でも機械的に上手になります。此際に限り無代進呈す。見本は東京本鄉區大學正門前國字速成學會（電下三弍一〇番）へハガキで申込めば無代進呈する。

廣告

日露協約締結に付官民一般衷心の意を表する爲め左の方法に依り祝賀會擧行致度候間御賛同の上至急御申込被下度候
一、會場 仁川小學校內大運動場
一、日時 七月廿二日午後六時
一、會費 金五十錢
一、申込所 仁川商業會議所
大正五年七月十九日
日露協約祝賀會發起人代表者 久水三郎 奧田貞次郎
追て當日午後七時半より提灯行列（小學校運動場集合）を擧行可致候間御參加相成度[illegible]

蠶繭委託賣買業 京城府龍山漢江通八番地 河原詩夫繭絲店 電話四三一番

京城府廳前 電話二七三 [illegible] 地方は送料頂きます

滿鮮第一 鶴屋本店 京城岡崎町

新刊書御案內

書名	著者	定價
增補改訂 產業と產業組合	松崎藏之助	一、五〇
南洋の產業及其富源	松尾音次郎	二、四〇
青酸瓦斯燻蒸法	門岡威夫	一、三〇
化學實驗案內	櫻井森金	一、七〇
最新商業新商略	秋山江之助	一、二〇
幽靈探訪	大倉達人	五〇
小說 仇なさけ	清水紫琴	五〇
母さ子	佐藤紅綠	九〇
獨逸富强論	永井柳太郎	九〇
獨乙戰前の眞相	自開ベーエンス	一、八五
日本と山水	志賀重昂	一、二〇
聽聞集	[illegible]	一、〇〇
日蓮	牛井柳水	一、一〇
求むる心	與謝野晶子	一、二〇
禮法かゞみ	日野節齋	一、五〇
韓譯古詩 一棒一喝	池上文卿	六五
增鏡新釋	和田、佐藤	九〇
小鳥の巢	鈴木三重吉	五〇
方丈記評釋	內海弘	四五
新アラビヤンナイト	三上 [illegible]	九五
休みの讀みもの	片山寬	三八
新式作文上達法	文章研究會	五〇
學生文範	小[illegible]	四〇

京城本町 電話二〇八六 振替京城二五七三 大阪屋號書店

京日案內

普通（一回每行金三十錢、一回以上は割引）
番外（一回每行金六十錢[illegible]）

普通
貸家 商業事務用煉瓦二階家屋家賃低廉にて貸す 京城長谷川町五八番地ゴルシャキ 506
記者及社員採用 希望者は履歷書持參[illegible] 京城花園町 中央金物新報社 505
[illegible]新法練習帳付▼四錢 京城本町 ウツボヤ書店 616
▼義太夫稽古本▼全部取扱へ有候 京城本町 ウツボヤ書店 616
小僧入用 十七八歲自轉車に多少經驗有者市內身元保證人要 京城南大門通二丁目 ミノヤ自轉車店 502

番外
社員採用 [illegible] 507
橫濱火災出張所 503
引越荷物堀運送社 電話二九三
支那語學講習會 695
寢臺車
廣橋自働車 648
恩給即時立替 金正淵
江州屋 625
間自働車
內科小兒科 女醫 川崎朋子 651
恩給 何年分でも 617
西村商會
分拆 礦物各種 坂元分拆所 668

…兵隊に報告せしかば同憲兵分隊は直に討伐に向ひたるに同地守備隊も之に應援を與へ一行は夜間彼等の襲…

…金五十圓慶源憲兵分隊長中尉神津久米作▲金三十圓同上等兵佐藤泰

既に七月五日遞信局技手以下内地人十名鮮人各名は光濟丸にて建設用材…

…なりと

●全北輕鐵運轉 全羅北道輕…三箇月を以て竣功する豫定

●大豺を撲殺す 去る十二日 全州郡… 午後二時 全州署 同十二時… て大瑳の水田畦を經て逃走しゐたるを同地金巴太柔太鎬の兩人が追ひかけたる處豺は遂に水田中に轉落し

●船頭の河豚中毒 鎮南浦港碇泊の一日勝丸船頭西脇仁助は本月十五…州郡寺谷面々長沈瓊澤の長男(三)…炊事場にて…し洗灌用の…

櫓太鼓 千秋樂

十八日の五日目は朝より快晴にて各取組は何れも好角家の力瘤を興起せしむるもの三役力士の取組の如き此の一番を見逃さばやとばかり詰かくる觀客は中入頃まで前日と同じく約四千と註せられ取組の外は幕内十枚目飛付五人抜きあり小常陸の勝となりたるが最後の大關揃の取組にて西の海の勝となりたるため吉例により白の軽の弓取の式あり喝采湧くが如き裡に目出度千秋樂を告げたるが觀客中に小宮次官、國分事務官、青木大塚兩課長その他の好角團體を始め宇佐美長官以下の内務部高等官、木村、井上、村田の三東拓理事、山形總務、大佐その他の總督府職員多數あり觀客何れも熱狂の極に達し空前の盛况を呈したり

勝	負
加納山	常錦
陸奥錦	大平山
光風	宮の浦
芦田川	常陸島
關の矢	小四川
湊山	佐渡ケ嶽
黒雲	關ケ嶽
因幡山	關ケ原
柳ケ島	駿河山
若常陸	宮城川
岩戸山	能代川
扇柳	唐錦
立昇	江戸櫻
綾鶴	小島洋
大門岩	常の花
湊 預	駒泉

勝	負
常陸嵐	白石
江戸崎	龍門
綾若	相の川
常陸錦	常の森
阿里山	信の川
夕潮	千葉の海
玉音	青木洋
高の山	大器
陸奥山	北泉
若津川	錦山
長門洋	深川
友ノ浦	立錦
鎮西山	玉柳
朝日山	紀ノ川
羽州山	成瀬山

▲中入後

勝	決り手	負
四海波	こなみ	男島
稲葉嶽	うつちやり	龍ケ崎
朝綾	うつちやり	梅川
岩木山	はたきこみ	宮城山
小常陸	はたきこみ	近江富士
紫雲龍	よりこみ逆	逆鉾
宇都宮	こてなげ	釋迦嶽
九州山	おしだし	源氏山
兩國	やぐらなげ	栃木山
綾川	(分)	對馬洋
西の海	したてなげ	大錦

▲本社番外好み 大門岩 すくひなげ 駒泉

に在りと兩力士は滿場の大喝采に迎へられて諸聲に立上るや龍無二無三押さんとするを稲葉敵の右手を引張り込み小手投げを振らんとするを龍外掛を試みたれど稲葉素早くウッチャリて勝▲梅川●朝綾●諸聲に立上り梅烈しく二三回突張るを朝は素早く右差しと取つて巻き落しを見せれば梅之れを堪川にきめ朝素早く二本差しとなつて外掛を見せれば梅危く殘り再びきめて寄るを朝土俵ぎはにて拾錦の打棄見事に極まつて梅の負▲宮城山●岩木山●は立上り素早く岩木右差しとなり掬ひ投げ二三回打ちたれど宮城の腰強き爲め危きに殘り宮城得意の絡み投げを打てば岩木廻り込みて再び掬ひ投げを打ち宮城の掬ひ投げ殘り烈しく寄るを岩木寄り返へし宮城土俵際に打棄りを試み岩木腰を落しながら吊出して勝ちは大角力なりき

▲近江富士小常陸 は立上り近江二三回小常の面を張つて押さんとして叩き込みを見せるを逆さまに小常に叩たかれて破らる▲紫雲龍●逆鉾●は逆の聲に立上り右四つとなり紫雲敵の右手を手繰つて渡し込みを見せれば逆は紫雲の右手を極めてより戻し紫雲耐へかねて下手投げ打たんとするを逆とびこして打かへさんとすれば右足ふみこして敗る▲宇都宮●釋迦ケ嶽●は宇敵の右手を引つ張り込み强引に割出さんとするを釋迦耐へるを宇都小手投げを見せ再び割出さんとすれば釋迦土俵際に殘るを强引の小手投げ振切つて宇都の勝

▲源氏山に九州山 は立上り源氏一氣に寄らんとするを九敵の右手を引つ張り込み小手投げ打てば源氏厭やがつて九の喉輪を攻め九の面を二三度張りながら源上手廻しを引かんとする鼻を押し出して九の勝

▲栃木山に兩國 は諸聲に立上つて栃木素早く左さしとなつて素早くひきづり投げ打てば兩外掛けに防ぎてあびせ倒さんとするを栃木廻り込みて烈しく寄せば兩はさすがの曲者だけあつて土俵際にて櫓投げを打てば栃木見事に極まつて敗られたるは場内割るゝばかりの喊聲あがりたりき

▲綾川に對馬洋 は立上り烈しく二三回双方突合ひ對馬右差さんとあせるを綾突き入る事二三回遂に手車と成つて双方動かず力入つて水入、水入後綾の隙を見て對馬素早く右差しとなつて双方投げの打合ひとなり對馬得意の上手投打たんとするを綾は對馬の首を抱へ込みたれば對馬容易に上手投げを打てず双方共力入つて引分け

▲男島●四海波● 立上り四海左差しとなるを男遮二無二極め渡さんとするを四海素早くツタシ込みて勝▲稲葉嶽●龍ケ崎● 幕内優勝は此の勝負

本社懸賞の銀杯を受取つて大ニコ〜の稲葉嶽

▲西の海に大錦

西は立上り烈しく二三回突合ひ大、西のよみめく處を一氣に押さんとして左四つとなりて大二三回掬ひ投げを打てば西耐へて中央まで寄り戻し力入つて水入、水入後大あせつて寄るを西注文の下手投げを打てば錦耐へかねたる處を西續け様に下手投打て見事極まつて西の勝にて五時半打出し

●遂に罪狀自白

清津の二人殺しは既記本月十日午前三時頃間島龍井村なる清津貿易商西倉七郎支店に兇器を携へたる二名の支那人强盜侵入し睡眠中の支店主任岸本銀藏(四)及び朝鮮人店員李某を殺害したるが之と同室に寝臥し居たる内地人店員岩田米一(二)が其物音に目を醒まして大に驚き無我夢中にて窓より飛出し直ぐ前方なる支那巡警派出所に駆込み急を報せるも巡警は持兇器强盗と聞き逡巡して急に出張の模様もなきより更に我總領事館警察に走り行き急訴せるより巡査は現場に駆け付けたるに此時既に賊は逃走せる後にて兩人が無慘にも殺害せられ居る傍には手提金庫が破壞され在中の金子殘らず奪はれあるにぞ直に支那巡警局にも通知し共々犯人捜査に着手したるが近々捜査の歩を進め居る中店員岩田米一の供述に不審の點あるを發見し同日中に同人を拘禁して嚴しく訊問したる結果遂に包み切れず同犯人は岩田自身にして犯跡を晦ます手段として馬賊の闖入せる如く装ひ急訴に及びたるものなりとて漸く事實を悉く自白したり(清津)

●自動車班行程

陸軍々用自動車班は十六日午前五時輕井澤を發したるが和田峠の險阪を徐行せし爲め何等の支障もなく進行し午後八時下諏訪町に到着せり尚十七日の行程は午前六時發長野より松島を經て下伊那郡に入り日程遅れたる爲め飯田には滞在せず直ちに大阪方向に行進を續くる筈なり(東京電話)

●十八名溺死す

七月十三日午前九時慶尚南道晋州郡琴山面東沙里渡船場に於て渡船業者金基善の所有船が同郡道洞面上塢河岸を距る約十里の所に於て轉覆し死者十八名を出したる椿事あり原因は定員二十五名の船なるに拘らず三十名の外牛四頭を乗せたるに加へて乗客一同船首に集りたるより船首より浸水し遂に此の奇禍に遭ひたるものにして初め乗船客の中一名は文山面鮮文山に下船したる爲め遭難を免れ殘り二十九名中生存せしもの僅かに十一名にして其の餘の十八名は全部溺死せり溺死者は男五名女十三名にして死體は更に不明なりと

●朝日山の葬儀

大阪相撲協會取締朝日山四郎右衛門の葬儀は十六日午前九時過ぎ逢阪上之町の宅を出棺導師たる攝津王田御坊光福寺第二世智顯和尚以下三十六人供を初め平野光源寺天王寺光照寺同超願寺同專宗寺の五箇寺外宗として天王寺壽運庵大和長谷寺以下列を正し棺前には樂人其揆には大錦二瀬川西の森以下朝日山部屋力士及び小染川親議として加古川松の音以下百數十名の力士附添ひ東京協會の根岸理事友綱の妻女とみ大阪協會の役員其他關係者は勿論參列者は頗る多く谷町筋より高津表門前を西へ松屋町道頓堀戎橋筋日本橋筋を經て千日前に至りそれより四天王寺に入り本坊にて莊嚴に執行せり(大阪支局)

□名譽の優勝力士 稲葉嶽 銀杯を抱て 大ニコ〜

◇大きな賞藥◇ を賭つた老巧の龍ケ崎を美事に土俵の圏に埋めて歡聲を浴びながら仕度部屋に引き上げて來た稲葉嶽は急い廻しを突き出しながら大ニコ〜部屋の外へ出て今賞つて來たばかりの本社紋章入一升入の大銀杯を擁けて寫眞機の前に立つ、此の時同じく優勝候補者の對馬洋だの朝潮、九州山等が遣つて來て覗き込む、其傍に

◇澤山寄つて◇ 來た彌次馬は「關取大いに飲めるね」と囃し立てる、力士連中がいろ〜な事を言つて彌次る本人一向に平氣唯嬉しさうに細い目を愈細くして喜んでゐる同人は本名を渡川光之助と言つて

◇千葉縣行德◇ 川原の生れ濱風の弟子で本年二十八歳身長五尺五寸體量二十七貫で得意は左四ツ寄りで頗る温厚で今年入幕した有望力士である

●横死外人葬儀

既電の如く兇賊の手に斃れたる本郷中央會堂日曜學校長キャンベル氏夫妻の柩は十八日午前十一時三十分上野驛に到着牧師其他二百餘名の出迎へあり黒布に蔽はれたる二個の柩はマッケンジー博士の手に擔ぎ下されて驛前に待ち構へたる二輛の馬車に乗せ青山齋場に向ひ同所にて基督教式の埋葬式を行ひ青山なる外人共同墓地に埋葬せり(東京電話)

□大相撲スケッチ

●天保錢會主來る

天保錢主義者として有名なる王塚榮次郎氏は帝大在學中の令息及び令嬢と共に滿鮮の商業及び金融状况視察を兼ね主義鼓吹の爲め十八日午前九時南大門驛着汽車にて入京し朝鮮ホテルに入れり同十時よりは山縣政務總監宇佐美内務部長官郡山秘書課長等を總督府に歴訪し午後昌德宮博物館其他を巡覧一兩日滞在仁川を視察の上滿洲に向ふ同氏の天保錢主義とは人は自己を天保錢と思ひ常に徳の不足を補ひ勤儉貯蓄して向上發展すべしとするに在りて天保錢に親しみ主義の本尊とせるには面白き實驗談理想談も少からずと

●東京相撲出發

大盛况を以て千秋樂を告げたる東京大相撲一行二百餘名は十八日打上後午後七時十分南大門發の列車にて仁川に向つて出發したるが勸進元その他の見送り多數ありたり

●仁川乗込 杻峴驛の出迎へ盛ん

東京大相撲大錦、西の海一行は京城に於ける五日間の興行に大盛况を呈し目出度千秋樂を告げ十八日午後七時十分南大門發八時四十七分着仁川に乗り込みたり列車の杻峴驛に著するやプラットフォームには關係者一同が仁川料理屋紅裙連及び贔負連約三百名出迎へ一方一行の乗込を見物せんとて集ひ來るもの無慮三千人驛の内外は熱狂せる歡呼に伴うて混雜甚だしく爲めに豫定の樂隊を先頭にして花々しく乗込む能はず力士は僅かに腕車に依りて各自其の旅宿に到著するを得たる有樣なり尚十九日は仁川に於ける鹿兒島縣人の西の海及び鹿兒島縣出身力士歡迎會を尾田氏の別莊に開催し銀杯一個を贈る由

支度部屋

▼本社の銀杯稲葉嶽の手に落つ 初て白い小常陸 大錦敗戰を語る

盛り續きの京城興行の四日間は忙しく去つて今日五日目は千秋樂、然かも此の日打出しと同時に八ヶ立ちにて仁川乗込みさあつて中入前後の仕度部屋は明荷を擔いで歸る取的既に

▼旅裝を整へ て關取を迎へに來る小角力なんどが忙がしさうに出入りして落つかぬ氣分が兩部屋に漲る。斯る中にあつても本社の懸賞大銀杯は力士の間の大問題となり龍ケ崎、稲葉嶽の優勝同志が合つてる事とて此の二人は勢ひ

▼問題の中心 となる。軈て決勝戰は迫つて來た、男島と四海波の一番が濟んで愈々銀杯爭奪戰の幕が開き力士の羨望の的となつた老巧の龍ケ崎を新入幕の新進稲葉嶽が散々に驅け悩まし土俵際まで寄り詰めながら打棄られて稲葉の勝となり、勝つた稲葉は悄るゝお如き

▼喝采を浴び ながら弟子に銀杯を持たせながら、あちこちから「イ〜」と跳いてくる見物に迫られ乍ら戻つて來た、仕度部屋の連中は「やあ到頭やつたなあ、おめでたう、オイ今夜仁川で飲まうぜ」と大騒ぎだ、稲葉は謙遜して何も言はず包みきれぬ嬉しさを現はし乍らニコ〜もので

▼寫眞を取り に行つてしまふ。近江富士を覗き込んで來た小常陸は『馬鹿に固い頭を打突けやがる、ア、痛ね〜』と額を擦り〜『今日は白いぞ』と元氣よく出てゆく。負けた近江富士は『汗で滑べつた、あんな背の小さい野郎に叩き込まれるとは思はなかつた』と洗ひ場でやけに水を浴びる

▼九州は源氏 を押出して歸り水を使かつてゐると負けた源氏山がやつて來て『何んだつてあんなに張るだい』と抗議を申込むと『お前が先きに張つて來たから三層倍張つてやつたんだい』とさつさと水を使つてしまふ、源氏は詰らなさうな顔をして歸つてゆく栃木山は『…りもされず併かし

▼惜しい相撲 だつた』とさひながらも此の人の癖でニコ〜しながら歸り、對馬洋は『綾川は強い』と敵を褒め、大錦は『あゝ惜しかつた、いゝ相撲だつたのに、打たうと思つても…』と何時になく敗戰を語る

勝つた西の海は『あゝ、今日は骨が折れた相撲だつた、何しろ大錦の腹が大きいので困まつた』と水を使つてさつさと出て行つた、之れで全く空明きになつた仕度部屋には裏口から出ようとする觀客がドカ〜と雪崩れ込んで來た

本椿香油

三宅大賦堂

袋きに 各宮妃殿下及宮内省御内儀御用之光榮を蒙れり
●九條公爵家始其他華族貴顯方御愛用の榮を蒙れり
各博覽會にて金銀牌受領
㊟注意 二姉入共頭上桶なきは偽物
定價 廿錢、卅錢、六十錢、一圓
髪を黒く長くつやを出しさらくとして髪のぬけを防ぎ姿かつかざる事妙なり

▲ハートの 大正館にては…

讀者文藝(一等には本誌前號を呈す)

▲謎『寫出しと掛けて』名判官と解く、心は捌きが早い (一等) 京城若草町 石川稻鳴

▲御殿の絵馬堂と解く、心は奉納額をあげてゐる 龍山 朴念仁

▲日本の鐵道起原地と解く、心は京濱が第一 京城東 海

▲旅行家の手荷物と解く、心は軽品がよい 釜山 山水

▲力士の背中の土と解く、心は負けた土の汚ましの 龍山 岡本小草子

▲初妓と解く、心は從來よりもよく賣れる 鳥致院 宮崎飛雄

題	締切	發表
歌題『土用干』	十八日	廿日
俗謡『渴女』	同 十九日	同 廿一日
川柳題『節』	同 二十日	同 廿二日
一口噺題『隠居』	同 廿二日	同 廿四日
次回題『夕立と掛けて』	同 廿三日	同 廿五日
推めえ	同 廿四日	同 廿六日

▲募集規程 ▲用紙は端書又は同型の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事▲賞品は一週間後▲種類の異る毎に用紙を更ふる事總て一題二句以内の事▲此規程に拘はるものは沒書

痛くて堪らぬ 齒痛の時

ズグおつけなさい!!

今治水

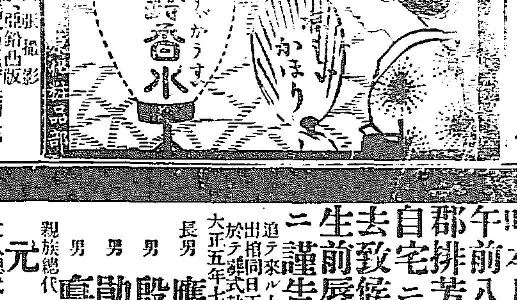
の驚くべき奏效 島村醫學博士有効御證明の『いまなをるはくすり』今治水は齒痛一切に非凡なる特効あり!!

(主効) ㊞むし齒の痛 ㊞神經の發る齒痛 ㊞齒の根の痛 ㊞肩の凝る齒痛 ㊞はじしの痛 ㊞逆上發る齒痛

價 十錢、廿錢、消毒綿及ピンセット付

本舗 大阪心齋橋 東京備馬町 丹平商會藥房 全國到る處の藥店に取次販賣す

寫眞 京城日報社 寫眞出張撮影 寫眞銅版・亞鉛凸版 寫眞製版部



私共龍山在住中は一方ならざる御懇情を賜はり難有深謝候今回出發の際は一々拜趨御暇乞可申上之處行李匆々の際とて其儀を得ず失禮の段御海容被下度尚又本日出發の際は態々御見送を辱ふし…恐縮の至に存候此段略儀ながら紙上を以て御禮申上候 敬具

大正五年七月十八日

川瀬鎌治郎 同 ゐる

不動產競賣廣告

京城府南大門通三丁目百八番地
一、垈地貳拾八坪
一、右地上建設 煉瓦造參階建木家造棟 建坪拾九坪九合九勺
右來ル二十四日競賣ニ附ス詳細ノ事項ハ京城華商總會ニ就キ照會アレ
競賣場所 京城華商總會

●南鮮出張
性相學講演の爲め本日より向二週間豫定にて大邱及太田地方へ出張仕候也
大正五年七月十四日
東京性相學會朝鮮支部 主幹 隈本修平

家父元世亨儀豫テ病氣ノ處養生不相叶遂ニ本月十七日午前八時牙山郡排芳面中里ノ自宅ニ於テ逝去致候間此段生前辱知各位ニ謹告仕候也

追テ來ル七月廿一日出棺同日天安郡新牛里ニ於テ葬式執行仕候

大正五年七月十七日

長男 元應常
男 元殷常
男 元勛常
男 元憙常
親族總代 元世文
友人總代 伯爵 李完用
宮本又七
兪星濬
藤川利三郎

葬具一式
造花、生花、花環、寄贈品、装飾品、其他供物一切
親切丁寧は本社の主旨に候間御用命奉希上候
京城永樂町二丁目 大葬社 電話一〇五六番

電話一五六七番
旭町二丁目(京城府廳横)
株式會社 京城葬儀社
霊柩馬車の設備有之候
中河原重吉 井上芳太郎
電話九五七番

葬儀請負
供花御寄贈品一式
京城本町二丁目(壽館横)
朝鮮葬儀社 電話五六二番

女鳩

渡邊默禪

【四九】にごぢ

住江は言ひたいことの半分も得言はなかつた。それも成るべく穏に穏に立たぬやうに氣をつけて腫物にでもさはるやうに温手こそはらかく出たつもりであつた。でも盛りの過ぎになつてゐた秀子には、ちやうど熟れ切つた疵口に強い防腐劑でも注射されるかのやうにぴり／＼した疼が心の全面に泌渡つた。

『だつて、それくらゐのことは大目に見て貰はなくちや困るわ。お父様に濟まないのなんのとお前は言ふけれども、お父様だつてお遊びに入らしつたんでせう。嫂さんだつて御うだわ。それだのに私し一人だけ取殘されて、つまらなくお留守をしてゐるんだもの。氣保養にそれくらゐな遊びをしたつて、別に差支がないぢやないの。お父様はそんなことまで立入つて、お叱言を被仰るやうなお方ぢやないわ。お叱言を被仰つたら私しが申譯をするわ。お前になんか些とも心配は懸けあしないことよ』

むつとした顔色の、鮮かな青味をもつた眼は最う涙含んでゐて、膝に置いた手の指先まで、怒に燃ねた心臓の波動がぶる／＼と傳はつて見えた。

『いゝえ、今も申上げました通り、お遊びなさいますのが惡いと申すのではございません。お遊びなさいます事柄があんまり大業過ぎますから、最う少し内輪に、少人數でゆる／＼とお娯みなさいますやうな事に遊ばしたら如何なものでせうかと、それを御相談申上げて居るのでございます。假令ばお歌の會とか、お花の會とか、餘り華麗でないお集りで奥床しく、しつとりと沈着いたお遊び事か、何ぞ有りさうなものでございますがねえ』

『いやアなこと、私しそんなのは大嫌ひ。歌だの花だのつていふのは、習慣式の女がすることよ。私しの趣味に合はないことを爲ろといふのは無理よ。趣味に合つてゐればこそ面白いので、面白くなかつたら遊戯ぢやないわ』

『左樣でございますか』住江はむら／＼する胸を強ひて制へて『さういふ思召なら兎に角、鈴木（家扶）に一應御相談遊ばすやうにして下さいまし。お待遇のこともなんか、いろ／＼會計上の關係もあるとでございますから』

『それしきのことを一々老人に相談しなくつたつて可いぢやないの。もし鈴木が苦情を言つたら、入費なんか私し負擔してよ』

『いゝえ、そんなことは兎にあれ、世間の評判といふものも御坐いますから……』

『をや、世間が何といふわ。風紀に關はるやうなことを爲る譯ぢやあるまいし、社交上ありふれた遊戯をしてお友人と一緒に娯むのが、何が不思議なの。どなたが何と批評するの』

語氣がだん／＼激しくなる。

『それまで被仰るなら、宜しうございます。最う何にも申しません』

強いて諫めればいさかいになる。是だけ言つても聞入れてくれなければ――と住江は疎ましくも情ない心持になつて默つて了う。

『まア、隨分非常識ね』秀子は膝を跨るやうに目で冷笑つた。

そこへ小間使のお孝が入つて來た。

『秀さま。あのメリー先生が入らつしやいました。今日はお稽古をお休み遊ばしますか』

メリーは隔日にやつて來て、ピアノと舞踏とを教へてゐる伊太利の婦人だつた。と、秀子は急に味方が飛込んで來たやうに勢ひづいて

『あら、待つて。いゝわ。休みあしないわ。直ぐ稽古場の方へ通して置いてお呉れな』

『はい、畏まりました』

『ちよいとお孝や』立つのを呼び止めて『それからね、濱田さんのお宅と香月さんと、圓城寺さんのところへ電話をかけてね。いつぞやお話しして置いた假装舞踏會ね、あれを明晩にもやりたいから、その御相談に是非ツてね。今晩の七時迄にみんな此處へ集るやうに爾う言つて頂戴』

住江にあてつけるやうにきび／＼した調子で吩咐けた。

『あら、いよ／＼お始めなさいますんですか。まア嬉しいこと』お孝は燥いだ聲で言つて、踊るやうな身振をしながら、出て行く時にぢろりと住江を見た。

皮膚科
皮膚病　黴毒　淋病　膀胱病　生殖器病　機能障碍
入院隨意（診察夜九時迄）
日曜祭日午後二時迄
京城明治町二丁目
佐藤醫院（電話一七三番）

齒科診療
京城南山町三丁目（巴城館通）電話二九二〇
橋本齒科醫院
齒科醫學士　橋本清次郎

ぬしけキャラメル　坊やは干菓子　妾しやアンパン木村屋の（電話八七二）

新刊紹介

▲日の丸（八月號）小供向雜誌中の白眉なり無邪氣なる裡に一貫したる育兒上の教訓を見る猶補説明のページ愛育常識を附す（八十錢東京府豐多摩郡大久保エビス文敬社）

▲官公吏必携書翰と式辭　官公吏かその資格を以て發行する書翰文と儀式文とには自づから一定の形式あり本書は此の形式を示さんため各官署において是まで實地に使用したる書翰文と儀式文とを蒐集し（北海道…）

讀者の領分

▲夕まぐれの薄暗い横町で若い女と見るとモシ／＼と言ひかける男が始終步き廻つて居るが（…）

▲西洋人の通行するのを僕が明治町で黄金町に住む人が引止めるやうにして余を強請る無欲な人を乞食を僕も見たが彼は田舍から洋人の後をつけ（聞いた生）

▲近頃葬式屋の商賣人が新聞に廣告を出して（…）葬式屋は鮮人宮中に迎へ（…）（苦なしと）

▲同じく内地新聞及び本欄に依つて社會の状態を根本的に改善するの必要を認む我輩の知る事實には某神宮の合祀より葬式屋は繽々と押かけ來れる（…）其日の午後九時迄に悲しき永眠りに入つた例に依つて其日の正午頃より葬式屋は顔を出し方危篤の患者の爲に手不足の折柄に迷惑を感じた是れ等は何か取締の方法無き者か敢て一考を煩はす

（神の子）▲私はいつも思ふ。繁華の地にて幾つも驛ある場合、其の土地の名所或は驛附近の小區域の名を驛名とする如何かと　こふべき事なり。門戸とも云ふべき京城には京城ステーションの名稱を切に希望す長き旅行にいたく疲れを覺ゆ龍山の次は京城と地圖をひろげて漸く安堵せし新渡鮮者は將に半島の都に入らんとする時にあたりて、南大門々々と驛夫の呼ぶ聲に（大正の新少女）

▲僕の家へある寺の坊主が盆の棚經に來た、同時に若い者が自轉車を持つて門前をキョロ／＼二三度往復して居るのを見た暫時にして玄關に案内を乞ふものがあつた、出て見たら以前の自轉車の若者が、この邊に死んだ人があると聞きましたが、ぞの家でしようかと尋ねた、突然の事で知らないと云ふてやつた歸つた後で今の若者は葬式屋の者で先刻棚經の坊主が來たのを見て、もしやと思つての注文聞きと知つた（ひどい奴生）

▲世間で求むる理想的店員　人徒らに多くして人物少なく理想的店員を見ること難し本書は二十三章に亙り道徳及び處世の要求する理想的店員の養成に勉め一方人生の要諦とを説き（…）（八十錢東京市神田區表神保町東京堂書店）

▲國語學の十講（通俗大學文庫）（第七編）文學博士上田萬年（…）國語學の知識を與ふるに努めたり（…）

▲銃獵界七月號（十二錢）東京市京橋區（…）

▲依然動かず　大阪の北高上寄で受けて十一圓二十錢大阪期米を受けて（…）
大阪期米相場（十八日）
十九日　七月限　十一圓二十五錢　八月限　十一圓二十七錢　九月限　十一圓（…）

廣告
内服藥　慢性りん病
本品は彼の梅毒藥六〇六號發見者として有名なるエールリッヒ博士の創見に係る新劑にして從來の石炭酸注文過多品は切りに此劑に對し效力著しく本劑は誘導なる緻密なる新藥を配合し（…）
但し急性には一劑に三十入一回二十入
大阪市東區道修町四丁目藥劑師
淺田藥局

胃腸最新藥
ヂゲスチン
（石本米十三ヶ國專賣特許）
胃腸病、食慾不進、消化不良等の治療に（…）
東京本町　合資會社　國城商會

わきが
人にも言へない惱みを持つて居た人が（…）十倍廿倍の異臭を與へ（…）
病の根治は殆んど不可能とせられつゝあつたが有名なる本郷順天堂より始めて發表せられし治療藥は強力なる化學製劑にして全治根治の多數なる感謝状には記者は實に驚異の感に打たれた今が治療の好時機であるから同病者はハガキにてスグ東京本郷區竹町四本郷順天堂製劑部へ申込密封で送つて貰はれたがよからう

昔も今も
大日本東洋治療學會（…）
效能で賣れる
ひゃくそう（…）
毒消し（…）
本家　やまと　伊藤長兵衛

くすりは山岸
洋藥　賣藥　醫療及試驗器械
懇切叮嚀、迅速確實に市内配達及び地方通信販賣致居候
京城本町二丁目
山岸天佑堂　藥品部　器械部
電話（…）

汝知るや
氷あづき
（…）
星　製藥　…

あせも湯上りに日本一の衛生御うち粉
サラリとして氣持よき皆樣の必要品
はせかわ
全國到る處に取次店あり
定價　四錢　六錢　七錢　十一錢　十三錢　廿五錢　外各種
東京上野
徳田多助
振替四五六一番

最上醬油
特許機械製
ほまれ味噌
絶對的品質本位
鮮滿釀造界唯一の名譽
於始政五年朝鮮物産共進會
金牌受領
釀造元　仁川港
日本醬油株式會社
電話七五一番　振替京城一七四番
京城出張所
電話二五四番　振替京城五二三番

富道しるべ　村上唯吉氏著
大邱浦項間自動車
大塚農場自動車部
大邱出張所
電話一一七番

大阪商船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、門司、神戸大阪行
須磨丸　七月卅一日　後五時出
安東丸　七月廿七日
天草丸　七月廿二日
×鎮南浦、龍岩浦、安東縣行
滄州丸　七月廿五日　後二時出
×木浦、釜山、巖原、鄭の浦、長崎行
信濃川丸　七月廿三日
信濃川丸　八月九日　後二時出
○鎮南浦、關門、神戸、大阪行
須磨丸　七月　後二時出
×鎮南浦、大連行
信濃川丸　七月十九日
信濃川丸　八月四日　後二時出
○大連直行
日米丸　七月廿七日
福州丸　八月六日　正午出帆
○群山、神戸、大阪行
宮島丸　月　日　後五時出
○群山、釜山、濟州行
福州丸　七月十九日
日米丸　八月一日　後二時出
△鎮南浦、浦潮行（元山出帆）
△印八城津西湖津ニ寄港浦潮不寄港
安平丸　七月　日
宮島丸　七月廿四日　後二時出
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
基隆丸　七月二十日　後四時出
城津丸　八月九日　前六時出
御注意
京城切符發賣所　大阪商船會社仁川支店
内國通運會社支店

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行　丸　月　日後五時出帆
○元山、城津、西湖津、清津行　丸　月　日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行　小倉丸　月　日後五時出帆
○元山、城津、浦潮行　丸　月　日後十時出帆
○第三長平丸　門司、宇品、神戸、大阪行　月　日後六時出帆
住須奈、嚴原、壹岐、博多行
○天草丸　毎月二日九日十四日廿一日廿六日　午後十時出帆
大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行
第一共同丸　七月二十日後四時入港
大連にては青島行定期船に接續
第一坂東丸　七月廿二日前十一時出
○西湖津沿岸各港を經て雄基行
第三共同丸　月　日前八時出
阿波國共同汽船株式會社
本店　仁川代理店　山下回漕部
元山代理店　田口回漕部
京城取次店　河村運送店

日本郵船仁川出帆
○大連、太沽、牛莊行
相模丸　八月六日　正午出帆
高砂丸　八月十六日　正午出帆
三河丸　七月廿六日
仁川海岸通一丁目　堀回漕部

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
君が代丸　七月　日後四時出帆
大有丸　八月一日後四時出帆
神代丸　七月廿二日後四時出帆
秀吉丸　七月廿六日後四時出帆
高杉回漕部

朝鮮郵船出帆
○○○○全羅丸　七月廿一日　釜山發
京畿丸　七月卅一日
黄海丸　七月
成鏡丸　七月廿五日
○○○鏡城丸　七月廿二日　元山發
昌平丸　七月二十日
鏡城丸　七月
○○忠清丸　七月廿五日　元山發
平壤丸　七月
○永興丸　毎月廿八日　元山發
○盈德丸　七月　日　釜山發
○○江陵丸　毎日　釜山發
陝陽丸　毎日　浦項發
○三浦丸　七月　日　釜山發
○○海州丸　毎日　釜山發
巨濟丸　慶尚丸
○順天丸　三日目毎　木浦發
○公州丸　七月廿一日　木浦發
○慶興丸　七月廿一日　木浦發
○公州丸　七月　日　木浦發
○宗信丸　七月　日　仁川發
○江原丸　七月　日　仁川發
○○麗水丸　七月廿一日　仁川發
晋州丸　七月廿五日　仁川發
○○錦江丸　南陽丸　毎日午前　仁川發
京城府黄金町　松原運送店（電話長一七〇）